



リニア駅周辺まちづくり イノベーション戦略

令和7年11月
相模原市

Linear
Innovation
Strategy



共創の力でイノベーションを生み出し、 リニア駅から一歩先の未来を描く

相模原市は、市制施行に伴う、「工場誘致条例」の制定を契機に、工業を中心に産業が集積してきた歴史があり、リニア中央新幹線の開業に伴い、リニア駅・橋本駅周辺地域を中心に、首都圏・東海地方を繋ぐ「日本中央回廊」の一角を担う都市へと変化していく、大きな転換点を迎えています。

首都圏、日本中央回廊の新たなイノベーションの拠点を形成し、今後の更なる発展を目指すにあたり、まちの成長とあわせたイノベーション創出の基盤づくりを推進するため、「リニア駅周辺まちづくりイノベーション戦略」を策定しました。

このまちに関わる多くの方との新たな出会いと共に創り、イノベーションの生まれるまち」を共に創っていきます。

P3 Chapter 1

戦略策定の背景

- 相模原市の概要
- さがみはら産業振興ビジョン
- 相模原市産業と産業政策の歴史
- 相模原市リニア駅周辺まちづくりガイドライン
- 新たな経済圏「日本中央回廊」の形成

P8 Chapter 2

戦略の方向性

- リニア駅・橋本駅周辺の土地利用状況
- リニア駅・橋本駅周辺の産業集積
- 相模原市産業、リニア駅・橋本駅周辺のまちづくりにおける強み
- 相模原市産業、リニア駅・橋本駅周辺のまちづくりにおける機会
- 本戦略の方向性検討に係るクロスSWOT分析と戦略の方向性

P13 Chapter 3

戦略について

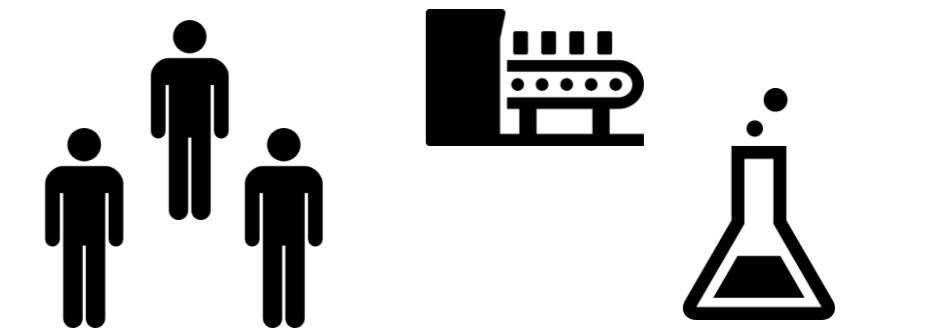
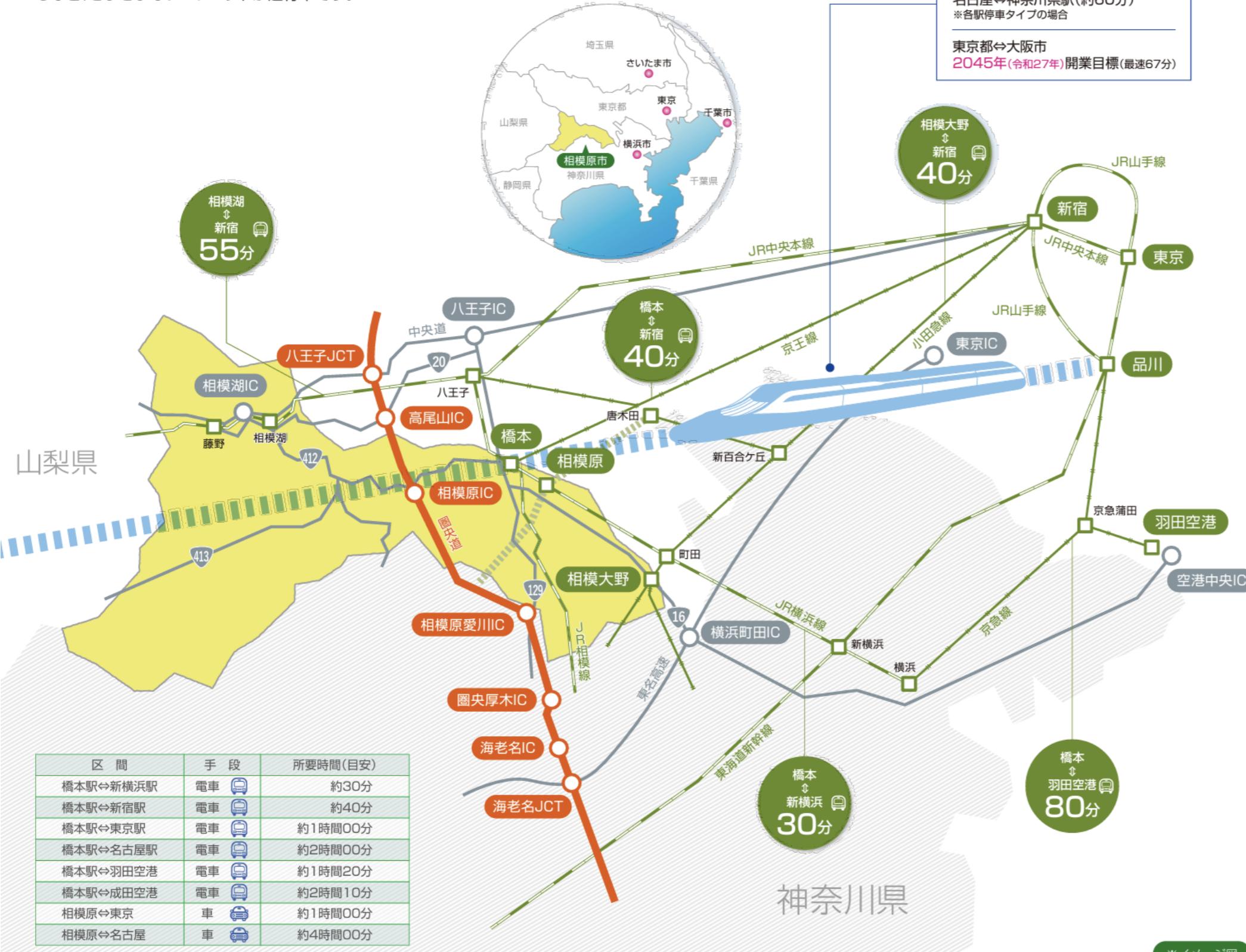
- リニア駅周辺まちづくりイノベーション戦略の構造
- リニア駅周辺まちづくりイノベーション戦略におけるエリアの考え方
- リニア駅周辺まちづくりイノベーション戦略の全体像
- リニア駅周辺まちづくりイノベーション戦略 ビジョン
- リニア駅周辺まちづくりイノベーション戦略 目標・戦略・施策
- 価値創造プロセス
- 戰略実現のロードマップ

相模原市の概要

神奈川県北部に位置する、人口約72万人の政令指定都市。市内には中小～大手製造業の生産拠点・研究拠点が集積し、JAXA相模原キャンパスも立地。現在、橋本駅周辺で新たなまちづくりが進行中です。

まちがつながる、未来が広がる ~広域交流拠点へ~

相模原市は首都圏の南西部に位置しており、東京都心から40km圏内にある、人口約72万の都市です。首都圏中央連絡自動車道(圏央道)が開通するとともにリニア中央新幹線(令和9年開業予定)が整備されるなど、さまざまなプロジェクトが進行中です。



人口
約72万人

専門的・技術的職業従事者数
約6.5万人



事業所数
約2.2万所

製造品出荷額
約1.2兆円



リニア中央新幹線神奈川県駅(仮称)が
設置される橋本駅周辺の様子

相模原市産業と産業政策の歴史

工場誘致条例の施行を契機に工業を中心に産業が集積。現在は、市内に蓄積された多様な産業アセット・リソースと連携し、研究開発・事業開発、スタートアップ支援、ロボット産業政策を中心に新たな価値・イノベーションを生み出す拠点形成を推進しています。



1950s～1990s



2000s～



2010s～



2020s～



- 工場誘致条例を施行（S30）し、24社が立地。その後も様々な企業が立地
- 現在までに11の工業団地が整備
- 京王相模原線橋本駅開業（H2）
- インキュベーション施設としてさがみはら産業創造センターを設置（H12）
- 産業の空洞化を背景に、産業集積促進条例（STEP50）を施行（H17）
- リニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）を橋本駅周辺に設置することが決定（H25）
- ロボット産業政策の開始（H26）
- スタートアップ支援、アクセラレーションプログラムの開始（R4）
- イノベーション創出促進事業開始、FUN+TECH LABOの整備と、神奈川県・相模原市・JR東海3者連携協定締結（R5）

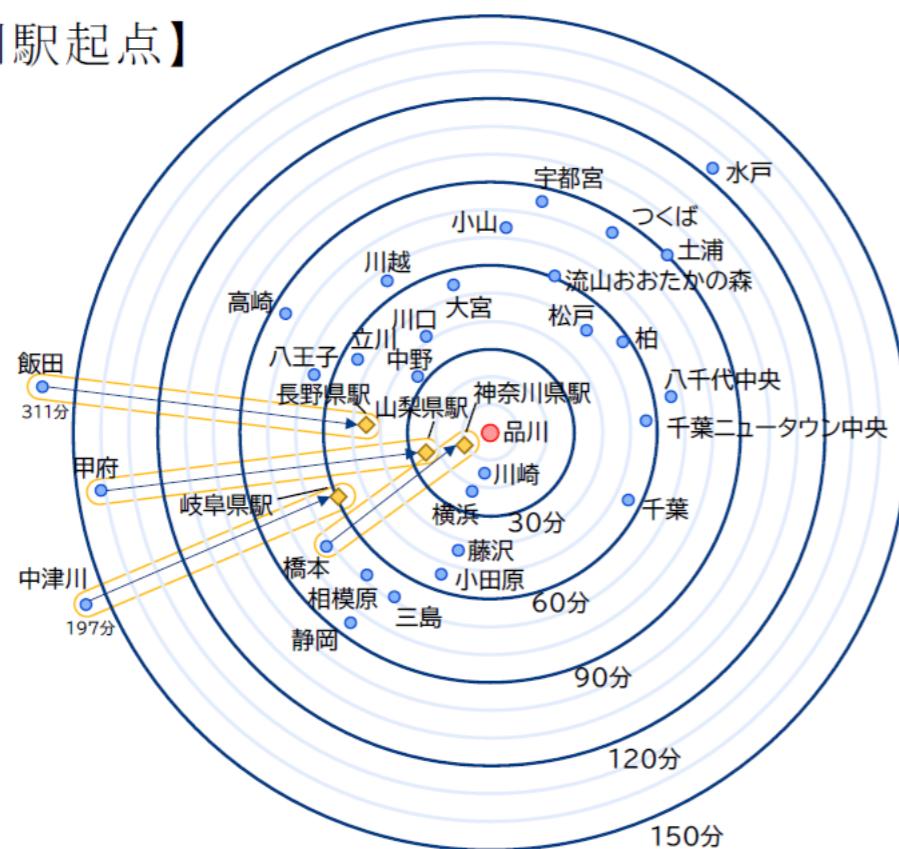
新たな経済圏 「日本中央回廊の形成」

「リニア中央新幹線中間駅を核とする『新たな広域中核地方圏』の形成」（令和5年10月）において、リニア中央新幹線開業に伴い、東京圏・名古屋圏の圏域、中間駅を中心に新たな圏域、エリアネットワーク、イノベーション創出の場が形成されることが期待されています。



図 リニア中央新幹線のルート

【東京圏：品川駅起点】



出典：リニア中央新幹線中間駅を核とする『新たな広域中核地方圏』の形成
リニア中間駅(4駅)を中心とする地域活性化に関する検討委員会

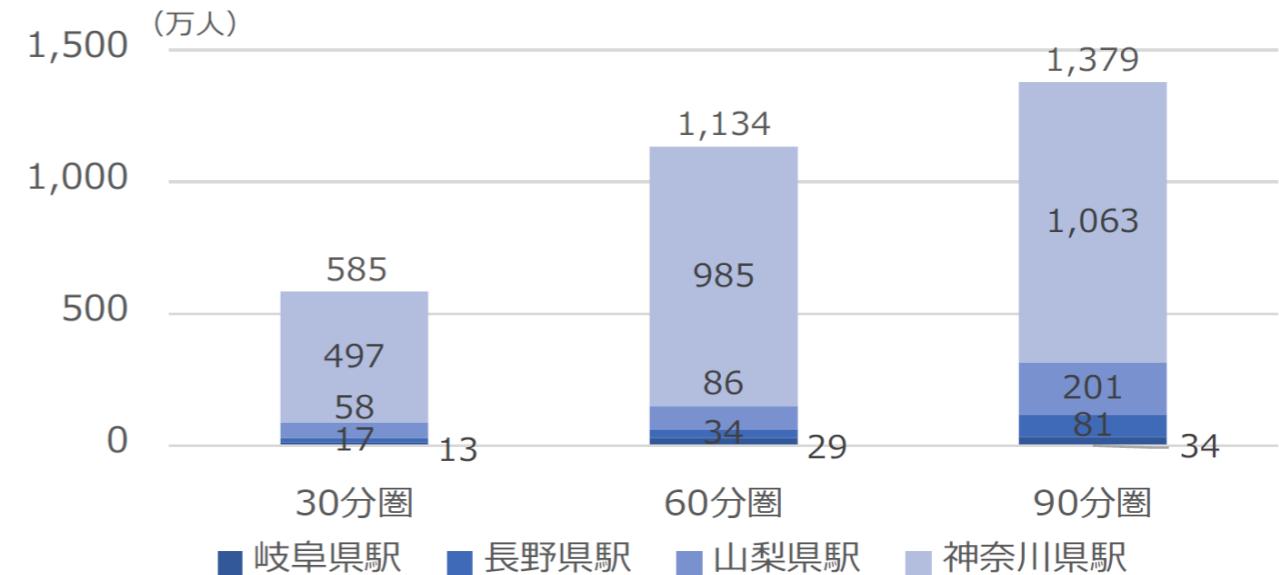


図 中間駅の時間圏域別の人団



図 リニア開業後におけるリニア中間駅での生活のイメージ

さがみはら産業振興ビジョン

「さがみはら産業振興ビジョン」は、相模原市総合計画を上位計画とした、産業振興に関する計画。戦略1 業種を超えた仕組みの構築による新産業の創出、戦略2 成長産業の集積とイノベーションによる価値の創造、重点プロジェクト「IV イノベーションの創出と戦略的な企業誘致の推進」「VI 交流人口の拡大に向けたグローバルなまちづくりの推進」等を定めています。

さがみはら産業振興ビジョン【概要】

1 策定の背景

我が国を取り巻く社会情勢は、新型コロナウイルス感染症の影響により停滞し非常に厳しい状況にありました。その間、デジタル化の進展、新たな事業展開、テレワークなどといった多様な働き方の浸透など、急速に社会変容が進みました。

その後、景気は、緩やかに回復しており、物価上昇や海外情勢等に十分注意すべき状況にありますが、雇用・所得環境の改善など、物価と賃金の好循環の流れができつつある中、国の総合経済対策によって経済再生に向けた取組が進められています。

2 策定の目的等

目的

本市では、リニア中央新幹線の神奈川県駅（仮称）の設置や相模総合補給廠の一部返還に伴うまちづくりなど、様々な広域交流拠点の形成に向けたプロジェクトが進められています。こうした中で、本市が将来に向けて発展し続けるためには、その基盤となる経済の発展が欠かせないことから、産業政策の方向性を継続的に示す必要があります。

そのため、新たな課題や新しい時代に対応するため、「さがみはら産業振興ビジョン2025」を継承し必要な見直しを加えた、「さがみはら産業振興ビジョン」を策定しました。

位置付け

相模原市総合計画を上位計画とした産業振興に関する計画であり、広域交流拠点都市推進戦略や農業・観光等に関する個別分野の計画等と整合を図りながら、産業政策の方向性を示したものです。

未来へつなぐさがみはらプラン～相模原市総合計画～(2020年3月策定)



さがみはら
産業振興ビジョン



- ・第3次相模原市環境基本計画（改定版）
- ・第2次相模原市地球温暖化対策計画（改定版）
- ～さがみはら脱炭素ロードマップ2050～
- ・第3次相模原市観光振興計画＜令和5年度改定版＞
- ・その他関連計画等

策定の考え方

- ◆ 「さがみはら産業振興ビジョン2025」を継承しつつ、必要な見直しを加えました
 - ・コロナ禍等における臨時・緊急経済対策実施に伴い、停滞した施策の推進を促進します。
- ◆ 計画期間は令和7年度から令和9年度までの3年間とします
 - ・国の総合経済対策（R5.11閣議決定）に掲げる成長型経済への変革期間（3年程度）にあたることや、市総合計画と整合を図りました。
 - ・現行計画の「さがみはら産業振興ビジョン2025」は令和6年度末をもって廃止しました。



3 目指す産業像・戦略・施策の方向性

目指す産業像・戦略・施策の方向性は、現行計画の「さがみはら産業振興ビジョン2025」における、これまでの取組を踏まえ、継続します。

目指す 産業像

世界に向けて、新たな価値と魅力を創造・発信し、
未来を拓くさがみはら

戦略1 業種を超えた仕組みの構築による新産業の創出

施策の方向性1.1 様々な産業の連携・交流・イノベーションの創出を促し、新産業を創出する

戦略2 成長産業の集積とイノベーションによる価値の創造

施策の方向性2.1 新しい成長分野を開拓し市場の獲得を促す

施策の方向性2.2 イノベーションにより新たな価値を創造する

施策の方向性2.3 ものづくりの力によりソリューションを創出し市民生活を支える

戦略3 地域資源の活用による魅力の創出とブランドの確立

施策の方向性3.1 まちの魅力の磨き上げと積極的な発信により交流を促進する

施策の方向性3.2 生活の質を維持・向上し、活力ある未来を実現する

戦略4 産業を支える基盤づくりの推進

施策の方向性4.1 市内産業の持続可能な成長と発展に資する基盤づくりを推進する

施策の方向性4.2 技術継承や生産工程の高度化により、ものづくりの基盤を支え続ける

【戦略1】業種を超えた仕組みの構築による新産業の創出

施策の方向性1.1 様々な産業の連携・交流・イノベーションの創出を促し、新産業を創出する

基本施策 1.1.1 広域交流拠点の機能を生かした連携の推進

【戦略2】成長産業の集積とイノベーションによる価値の創造

施策の方向性2.1 新しい成長分野を開拓し市場の獲得を促す

基本施策 2.1.1 成長産業の集積促進

【重点プロジェクトVI】

交流人口の拡大に向けたグローバルなまちづくりの推進

リニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）設置を契機とした橋本駅周辺のまちづくり、相模総合補給廠の返還等によって生じる新たなまちづくりの機会を捉え、本社機能、研究開発機能、スタートアップ企業等の立地・集積を図ります。また、飲食・サービスを含めた商業機能を充実させるとともに、業務、文化、交流等の複合的な都市機能を備えたまちづくりを進めるこにより、市内の購買機会や購買頻度を増やす等、地域経済の活性化を図ります。



(1) まちづくりの機会を捉えた企業立地の促進

リニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）設置を契機とした橋本駅周辺のまちづくり、相模総合補給廠の返還等によって生じる新たなまちづくりの機会を捉え、本市の特性を生かした誘致制度を創設し、本社機能、研究開発機能、スタートアップ企業等の更なる立地を積極的に促進します。

(2) 中心市街地の魅力向上

中心市街地にぎわいづくりを促進するため、商店街が実施する地域活性化事業や地域資源等を活用した魅力アップ事業、商店街が地域の一員として実施する地域課題を解決するための取組を支援します。

また、リニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）設置を契機とした橋本駅周辺のまちづくり、相模総合補給廠の返還等によって生じる新たなまちづくりの機会を捉え、来訪した人々に地域内を滞留・回遊してもらえるような中心市街地の魅力向上を図ります。

(3) 商業地の形成

飲食・サービスを含めた商業機能を充実させるとともに、業務、文化、交流等の都市機能を複合的に備えた商業地の形成を図ります。

(4) 宇宙航空研究開発機構（JAXA）と連携した宇宙関連産業の成長支援と宇宙の魅力を生かした商業振興（再編）

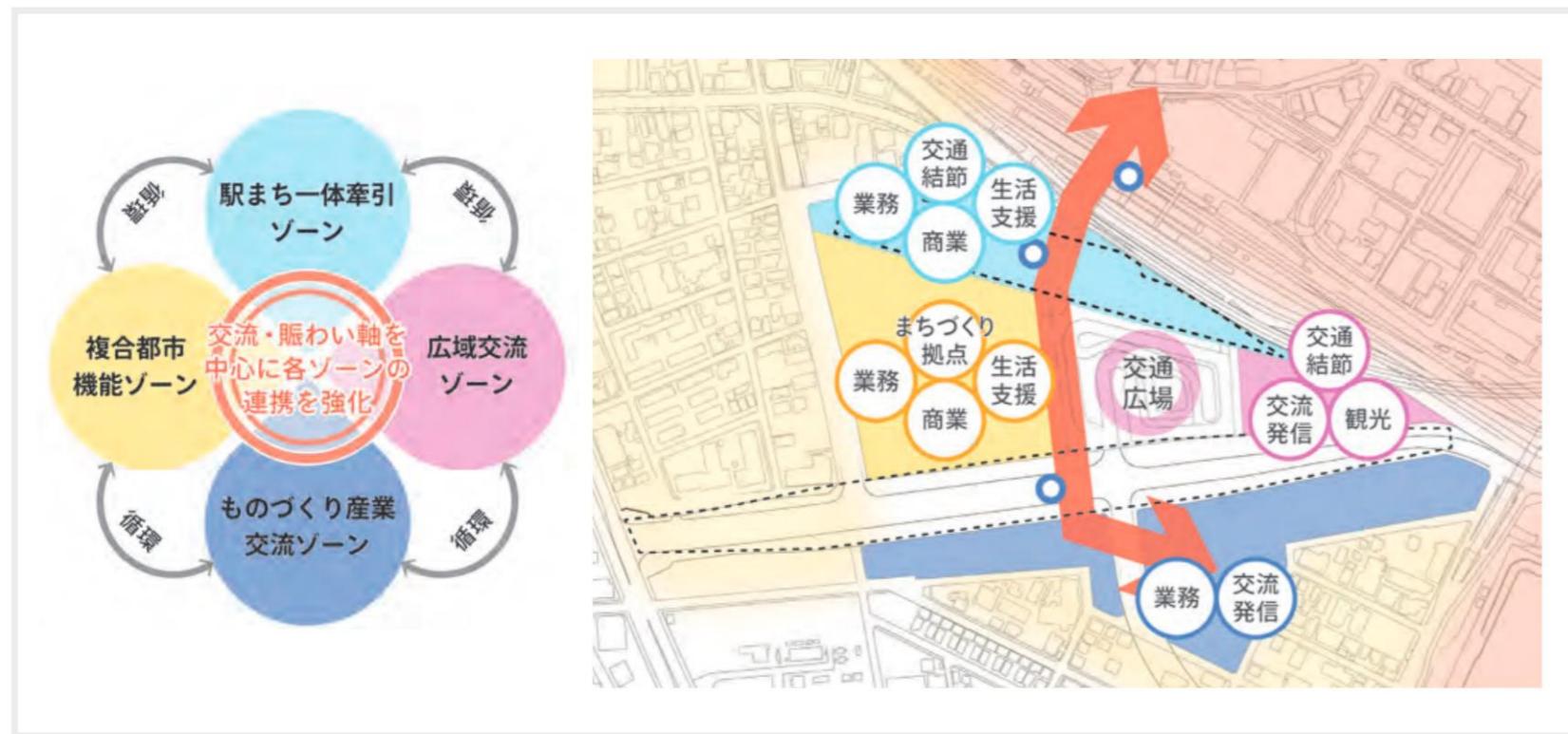
宇宙航空研究開発機構（JAXA）との連携によるセミナーや共同研究等を更に充実させ、市内企業の宇宙関連産業への進出を促すことにより、リーディング産業に位置付けている航空宇宙関連産業の市内における成長支援と集積促進を図ります。

また、JAXAとの連携による宇宙をテーマにしたイベント等の支援を通じて、商業・サービスのより一層の魅力向上を図ります。

相模原市リニア駅周辺まちづくりガイドライン

リニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）設置と合わせて実施する橋本駅南口周辺における再開発事業（約13.7ha）。まちづくりのコンセプトとして、「新たな価値を創造する土壤の形成」、「先端技術の拠点化」、「環境共生型ライフの実現」を掲げています。

● 各ゾーン間の機能連携による循環・発展のイメージ



駅まち一体牽引ゾーン

- ・広域交流機能と複合都市機能を併せ持つ、駅と街区が融合した「駅まち一体のまちづくり」を牽引するゾーン。
- ・京王駅の移設を契機に、在来線駅の結節点で新たなまちの顔として中心的な賑わいを形成しつつ、交通広場と連携した交通結節機能や南北のまちをつなぐ歩行者空間を整備します。
- ・駅を起点としたまちの利便性向上と、駅とまちの一体感の醸成、まち全体へ賑わいの波及に貢献します。

広域交流ゾーン

- ・圏域全体の観光、物産、産業等に関する交流や情報発信の拠点となるゾーン。
- ・交通広場と連携した交通結節機能や広場機能の導入を図るとともに、まちの発展に合わせ、多様な人々の交流を促す空間を創出し、社会課題の解決を目指した実装や実証などのトライアルを行うことで、まち全体の新たな魅力を創造します。

複合都市機能ゾーン

- ・働きやすさ、住みやすさ、過ごしやすさを兼ね備えた、誰もが心地よく過ごせるゾーン。
- ・子どもから高齢者まで様々な世代の活動を支える複合的な都市機能の導入を図るとともに、回遊動線と滞留・憩いの場を形成します。
- ・複合的な都市機能と空間の融合により、橋本ならではのライフスタイルを実現します。

ものづくり産業交流ゾーン

- ・地区内外への産業集積を牽引するゾーン。
- ・研究、インキュベーション、交流等の機能の導入を図るとともに、情報発信やイベントの開催等により、交流・連携を促進します。
- ・先行的な土地利用を視野に入れ、圏域内外のものづくり産業の更なる発展や新たな技術創造に貢献します。

2. まちづくりのコンセプト

リニアでつながる

一歩先の未来を 叶えるまち橋本



Platform

新たな価値を
創造する土壤がある



Technology

くらしを変える
先端技術の拠点となる

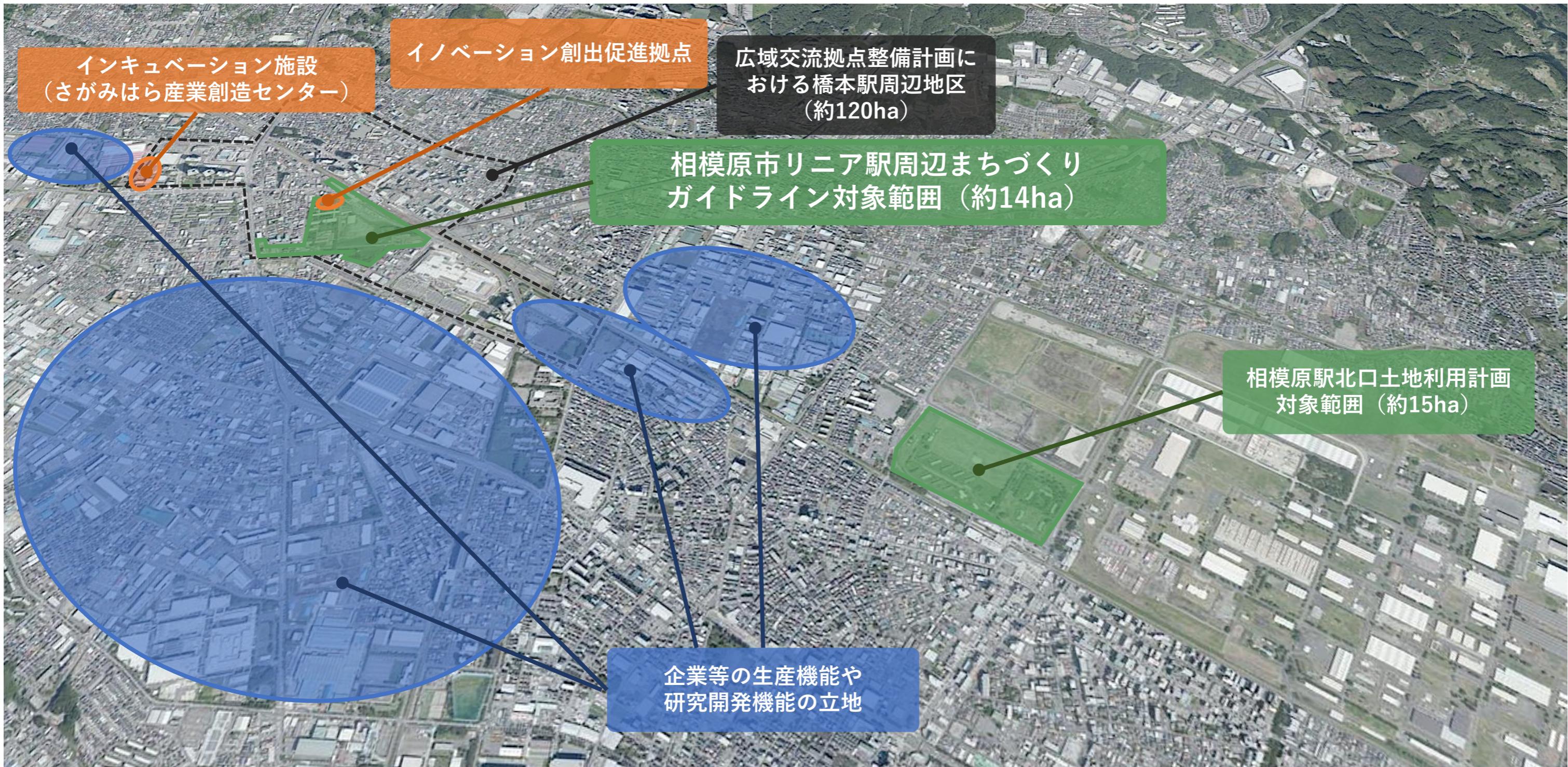
Green Life

環境共生型ライフを
実現できる

リニア駅・橋本駅周辺の土地利用状況

広域交流拠点整備計画対象範囲及び橋本駅周辺地区には、企業の生産・研究開発機能やインキュベーション施設、イノベーション拠点等の多様な産業リソースが存在しています。

※「相模原市広域交流拠点整備計画（平成28年8月）」P1-9広域交流拠点の都市づくり方針、P2-1第二章 橋本駅周辺地区整備計画 1対象地域を参考



出典：国土地理院Webサイト 地理院地図3Dを加工して作成

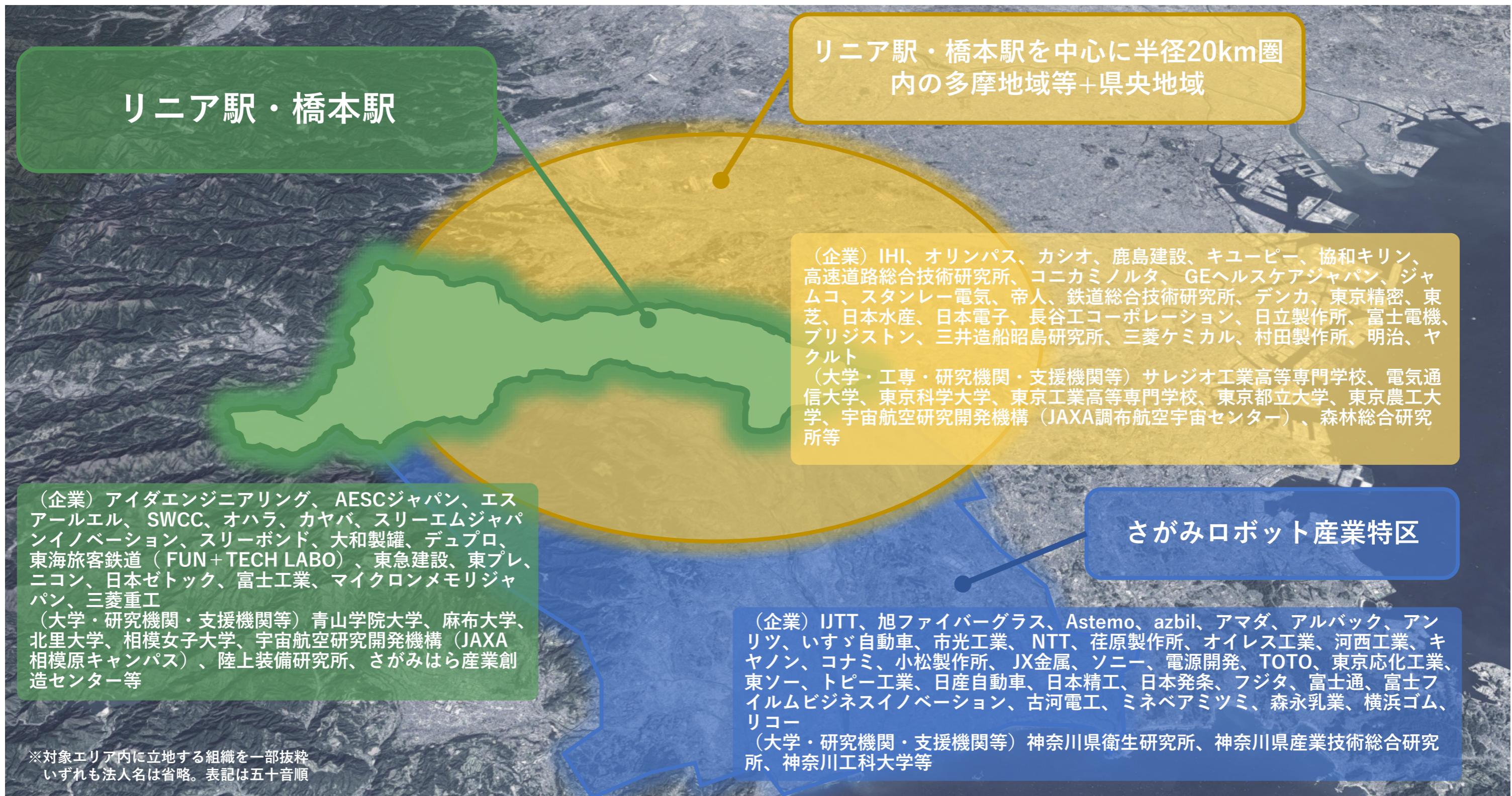
※おおよその位置を示したものであり、いずれも実際の、または計画上の正確な位置を示すものではありません。

リニア駅・橋本駅周辺の産業集積

相模原市内、リニア駅・橋本駅を中心とした半径約20km内の近隣地域※1や、さがみロボット産業特区区域内に、研究・開発機能※2を有する企業の拠点が170所以上、70以上の大学、様々な研究開発法人・試験機関が立地しています。

※1近隣地域：リニア駅・橋本駅を中心に、半径20km圏内の県央、多摩、横浜市・川崎市の一帯

※2基準：売上高100億円以上の企業で、基礎研究や応用研究を実施していること、商品の設計・開発を行っていること、実証環境を有していることのいずれかに該当するものを対象とした（いずれも各社公表情報R7.10閲覧時点）



相模原市産業、リニア駅・橋本駅周辺のまちづくりにおける強み

中小～大企業製造業の生産拠点、研究開発拠点が集積していることに加え、複数の大学やJAXA相模原キャンパスも立地。様々な技術シーズに加え、開発・生産リソースや実証環境も豊富な状況です。

多様なテクノロジーを保有する企業・研究機関等の集積

- 中小～大企業まで、生産・研究開発機能を有する様々な企業が立地し、人材も豊富。30社を超える研究・開発機能を有する企業が立地
- 大学や研究開発機関も複数立地しており、国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構の相模原キャンパスでは、工学系の研究や探査技術のオープンイノベーションを推進
- 新事業や研究開発を促す、インキュベーション施設、イノベーションハブが存在し、新事業の創出、研究開発を後押しする環境が立地



開発・生産リソースの集積

- 工場誘致条例の施行を契機に、以降、11の工業団地が整備。数多くの製造業が集積
- 工業団地を中心に、一品ものや特殊な加工や組立を得意とする企業、様々な要素技術を有する企業が集積
- 近距離・高密度で生産機能が集積しており、モノの開発・製造に関して、連携を行いやすい環境が存在



多様な実証・開発環境と都心からのアクセスibility

- 都市部から中山間地域まで様々なエリアを市域内に保有
- 現行の、スタートアップ支援やサービスロボット開発支援においても、市内の多様な民間・行政のフィールドと連携し、実証実験を推進
- JR・私鉄等、5路線が乗り入れ。東京都心、横浜まで約40分程度であり、多様な実証環境に、都心部から容易にアクセスが可能



相模原市産業、リニア駅・橋本駅周辺のまちづくりにおける機会

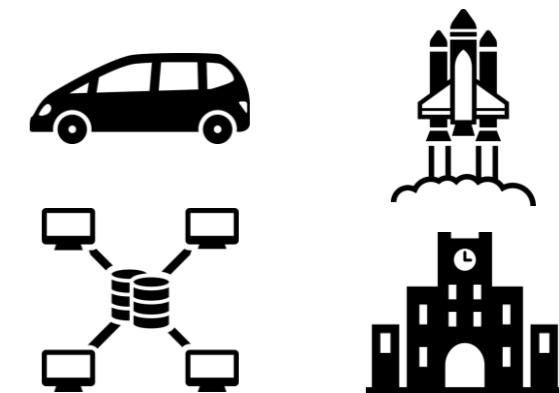
相模原市に加え、近隣地域には多様な企業・大学・研究機関や人材も集積している。既存の交通アクセスに加え、リニア中央新幹線の開業により、関西方面とのアクセシビリティも高まるため、人や企業の広域的なハブと成り得る可能性を秘めています。

周辺地域における企業・大学・研究機関等の集積

- 相模原市内、橋本駅を中心に半径約20km内の近隣地域※1や、さがみロボット産業特区区域内に、研究・開発機能※2を有する企業の拠点が180所、大学が70所以上立地（基準：売上高100億円以上※各社公表情報ベース）
- 近隣地域には多数のインキュベーション施設、公設試験機関、大学・高等専門学校、研究機関等、新産業の創出を促す多様な拠点が立地

※1近隣地域：橋本駅を中心に、半径20km圏内の県央、多摩、横浜市・川崎市の一部

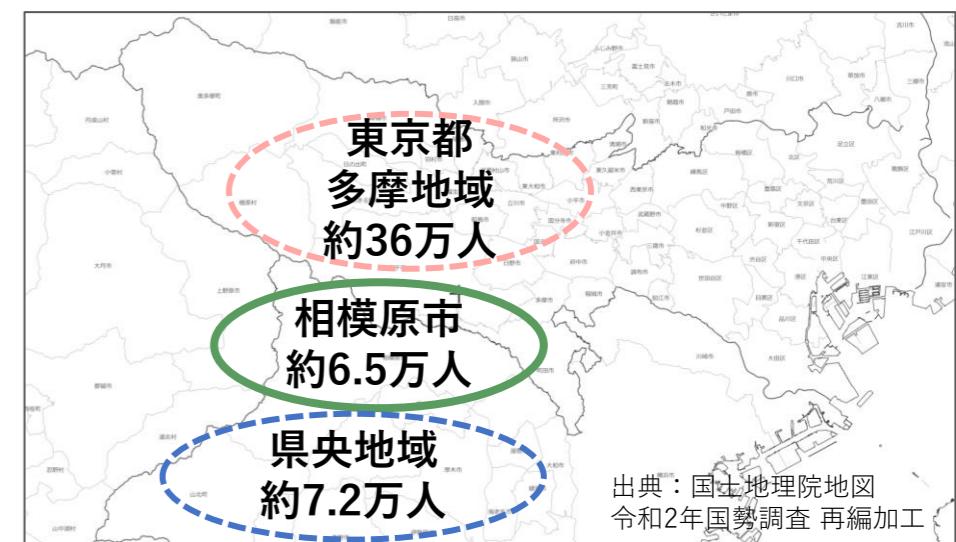
※2基礎研究や応用研究を実施していること、商品の設計・開発を行っていること、実証環境を有していることのいずれかに該当するものを対象とした



自動車関連、航空宇宙、情報通信、機械・電子、食品等様々な産業に属する企業の研究・開発機能を有する事業所や、大学等が集積

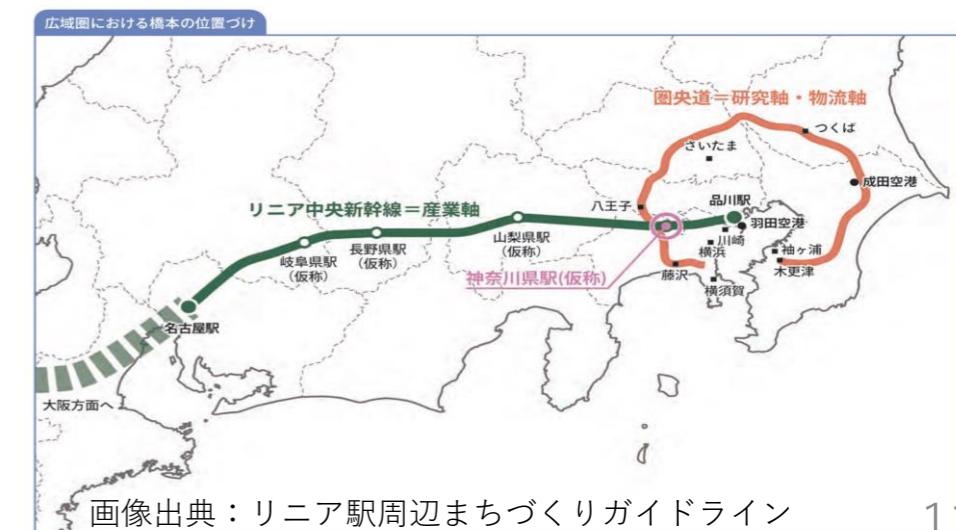
周辺地域における高度人材の集積

- 相模原市を含む、県央、多摩地域における高度人材（専門的・技術的職業従事者）の数は、約50万人とボリュームが大きい。相模原市単独でも6.5万人のボリュームを誇り、県央、多摩地域の各市町村で最大。製造業、情報通信業、学術研究、専門・技術サービス業従事者数のいずれも相模原市が最大（R2国勢調査 就業状態等基本集計より）



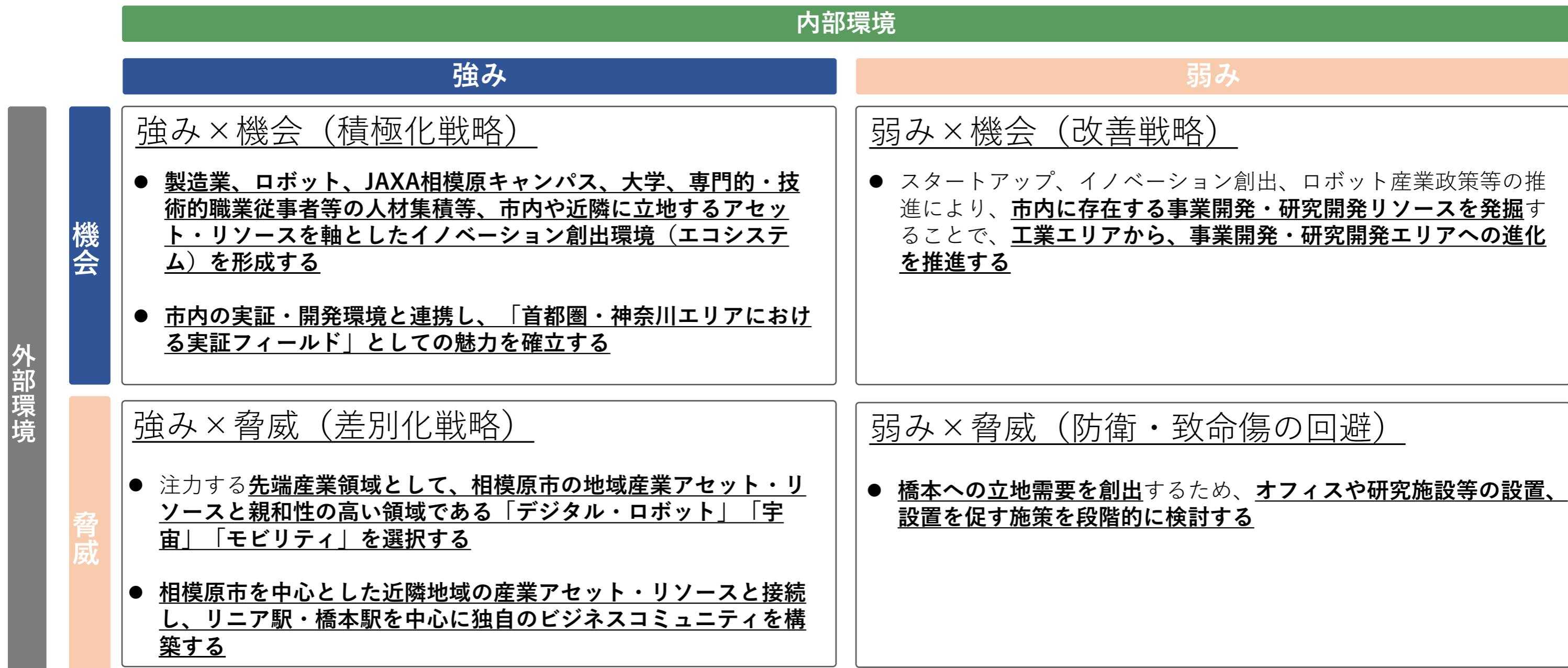
首都圏・関西圏へのアクセシビリティの向上

- 圏央道の開通及び市内2カ所のインターチェンジの開設により、藤沢・湘南地域、八王子、つくば等首都圏近郊の都市へのアクセシビリティが向上
- リニア中央新幹線の開業により、東京（品川）-相模原間の移動時間は約10分程度、大阪、名古屋等の関西圏へのアクセシビリティも劇的に向上する可能性



本戦略の方向性検討に係るクロスSWOT分析と戦略の方向性

相模原市内・橋本駅を中心とした独自の「イノベーションエコシステム」の構築と、オフィスや研究施設アセットの拡充により、首都圏・リニア沿線地域を繋ぐ「プロダクト化・製造業を軸としたイノベーションハブ」の実現を目指します。



1.近隣地域の製造業・研究開発資源を繋ぐハブとなり、広域交流拠点としてのリニア駅・橋本駅の価値を確立

2.地域全体で先端技術等の研究開発・イノベーション創出を推進し、エコシステムと、研究開発・イノベーション創出エリアとしてのブランドを確立

3.「首都圏の実証フィールド」としての魅力を確立

4.まちづくりの機会を活かしたオフィスや研究開発施設（ラボ）の拡充

リニア駅周辺まちづくりイノベーション戦略の構造

リニア駅周辺のまちびらきを見据え、市として目指すまちづくりにより実現する産業の姿とその方法を描いた産業のビジョン及び、まちの将来像やまちづくりの誘導方針を示した相模原市リニア駅周辺まちづくりガイドライン、さがみはら産業振興ビジョンを具体化した方針です。

計上位
画

総合計画等、各種上位計画

さがみはら
産業振興
ビジョン

世界に向けて、新たな価値と魅力を創造・発信し、未来を拓くさがみはら

(戦略1 業種を超えた仕組みの構築による新産業の創出、戦略2 成長産業の集積とイノベーションによる価値の創造、
重点プロジェクト「IV イノベーションの創出と戦略的な企業誘致の推進」「VI 交流人口の拡大に向けたグローバルなまちづくりの推進」)

リニア駅周辺
まちづくり
ガイドライン

リニアでつながる一歩先の未来を叶えるまち橋本（まちづくりのコンセプト）

Technology

暮らしを変える先端技術の拠点となる

Platform

新たな価値を創造する土壤がある

Green Life

環境共生型ライフを実現できる

リニア駅周辺まちづくり
イノベーション戦略

ビジョン

目標・戦略

施策（リーディングプロジェクト）、施策の方向性

国の施策

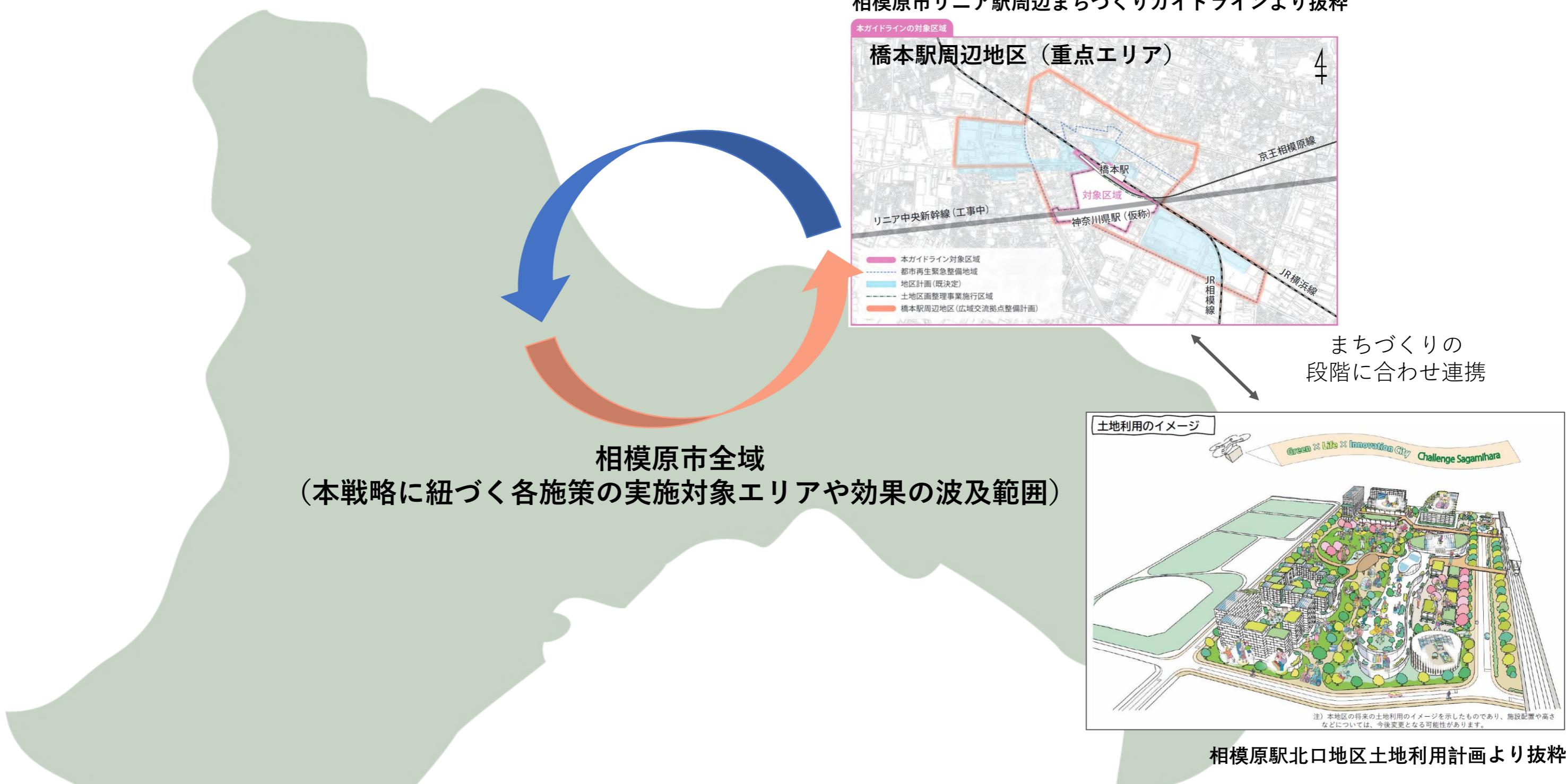
県の施策

市の施策

具
体
化連
携

リニア駅周辺まちづくりイノベーション戦略におけるエリアの考え方

相模原市リニア駅周辺まちづくりガイドラインの対象区域で定める「橋本駅周辺地区（広域交流拠点整備計画）」を、本戦略の実行とその成果を優先的に集積する「重点エリア」として位置づけます。本戦略に紐づく各施策の実施対象エリアや効果の波及範囲は、相模原市全域を対象とします。（※各施策の対象エリアが定められているものを除く）また、橋本駅周辺地区とともに首都圏南西部の広域交流拠点として位置付けている相模原駅周辺地区については、まちづくりの段階に合わせて連携を図ります。



リニア駅周辺まちづくりイノベーション戦略の全体像

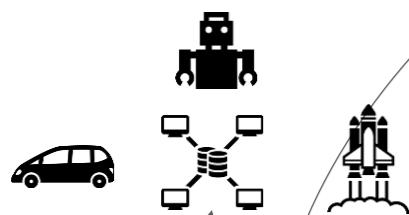
O…Objective (目標)

S…Strategy (戦略)

S-2 デジタル・ロボット、宇宙、モビリティ関連産業に係る研究開発・事業開発の推進

ターゲット産業のR&D推進による
他エリアと差別化と地域内波及の実現

事業拡大
支援



S-3 市内企業の新規事業開発、研究開発の活性化とオープンイノベーションの促進

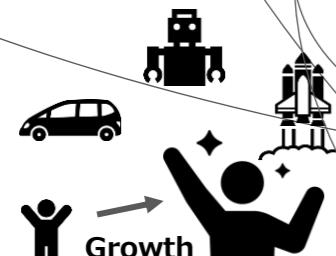
Inside-out、Outside-inによる
イノベーションと関係人口創出



S-4 県央・多摩地域等をはじめ、国内の大学・研究機関との連携強化、ネットワークの構築・拡大

大学との連携強化により技術シーズを集積

スタートアップとの
オープン
イノベーション



S-5 技術系ベンチャー・スタートアップを始めとした、多様なスタートアップの創出と成長支援

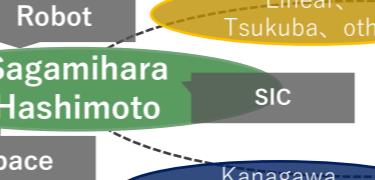
地域内外からベンチャー・スタートアップを発掘し、地域内に技術・ビジネスのシーズを集積

シーズ、支援リソース
拡充

コミュニティ参加

S-1 広域的な産官学のビジネス コミュニティ・ネットワークの形成

相模原市内、リニア駅・橋本駅を中心としたコミュニティ創出、他エリアとの交流によるネットワーク化



O-1 県央・多摩地域等と連携したリニア駅周辺広域イノベーションバレーの形成



O-2 事業開発・研究開発を促し、イノベーションエコシステムを形成

O-3 グローバルなネットワークの確立と交流の場の形成

O-4 イノベーション創出の文化とプライドの醸成

先端技術の
社会実装

先進的サービスの社会実装
地域のアセット開発

S-10 デジタル・ロボット、宇宙、モビリティ産業を中心とした、企業・研究機関等の誘致・集積

リニア駅・橋本駅を中心に企業や研究機関等が立地
ターゲット産業のR&Dリソースが集積

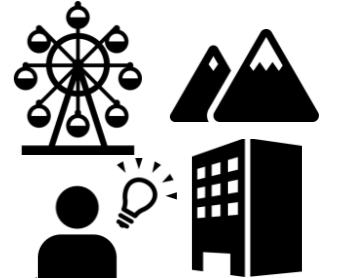
拠点設置・立地



受け皿の整備・拡充

S-9 事業開発・研究開発を促進するオフィスや研究開発施設等の立地・拡充推進

公共が業務開発の起爆剤となり、
段階的な業務施設拡充が実現



国内拠点
設置

S-8 実証環境の拡大と実証エリア化の推進

地域内の実証フィールド利用協力者を増やす。
都心からの近接性、多様なフィールド立地を活かし、
事業開発・研究開発シーズの地域への誘致



実証エリアとしての
ブランディング

S-7 先端技術の地域実装と、まちづくりや市民へのフィードバックによるブランディングの推進

事業開発・研究開発のアウトプットを発信し、to C還元。
産業・まちのブランディングを推進

S-6 海外の企業・大学・支援機関等との連携強化、ネットワークの構築・拡大

国外から技術・ビジネスシーズ、支援リソースを誘致、
地域から技術・ビジネスシーズを発信し、相互ネットワーク強化。
国内他地域の主体を引きつける魅力の構築

市内企業と自治体認知の相乗効果

リニア駅周辺まちづくりイノベーション戦略 ビジョン

リニア駅周辺まちづくりイノベーション戦略を通して実現する「一歩先の未来」

プロダクトイノベーションを生み出すハブ拠点と
イノベーションエコシステムを形成し、
テクノロジーの社会実装によりワクワクするまちを創り、
首都圏、日本中央回廊を繋ぐ「イノベーション・リンク」を形成する

I .Product Innovation Hub

-モノづくりの力でビジネスを「一歩先」へ

研究・開発・製造がワンストップで実現する「プロダクトイノベーション」の拠点となり、
首都圏、日本中央回廊における、メーカー群のイノベーションハブの役割を担います。
リニア駅・橋本駅周辺から、メーカーの新展開を促進する、「研究開発都市」への進化を目指します。

II .Innovation Ecosystem

-共創でアイデアやチャレンジを「一歩先」へ

国内外の企業、研究者、スタートアップ等、様々な人が立場を超えてつながり、
共創することで新たなチャレンジが促される基盤としての「エコシステム」を形成します。
イノベーション創出に必要な様々な要素をリニア駅・橋本駅周辺に確立し、
自立的・持続的なイノベーションエコシステムの構築を目指します。

III .Technology & Fun

-先端技術の力で「一歩先」の未来へ

基礎研究、応用研究や様々なビジネスアイデア、技術シーズの受け皿となり、
その成果をまちに展開することで、まち全体で技術の社会実装を推進します。
先端技術が全国から集まり、イノベーションを体感できるワクワクするまちを目指します。

ビジョン | .

Product Innovation Hub (プロダクトイノベーションハブ)

リニア駅・橋本駅周辺が「Product = 製品、製造品、商品、工業製品。転じて、製造品開発や製造業の集積」の意味を込めた、研究・開発・製造がワンストップで実現する「プロダクトイノベーション」の拠点となり、相模原市、県央、多摩地域をはじめとし、首都圏、日本中央回廊における、メーカー群のイノベーションハブとして、ビジネスアイデアと技術の接続、商品開発、実装、出口としてのイノベーション創出の役割を担います。オープンイノベーションの促進、ロボット、宇宙、モビリティ等の先端産業領域の研究開発、スタートアップとの共創やディープテックの育成に取り組み、メーカーの新展開を促す、「研究開発都市」への進化を目指します。



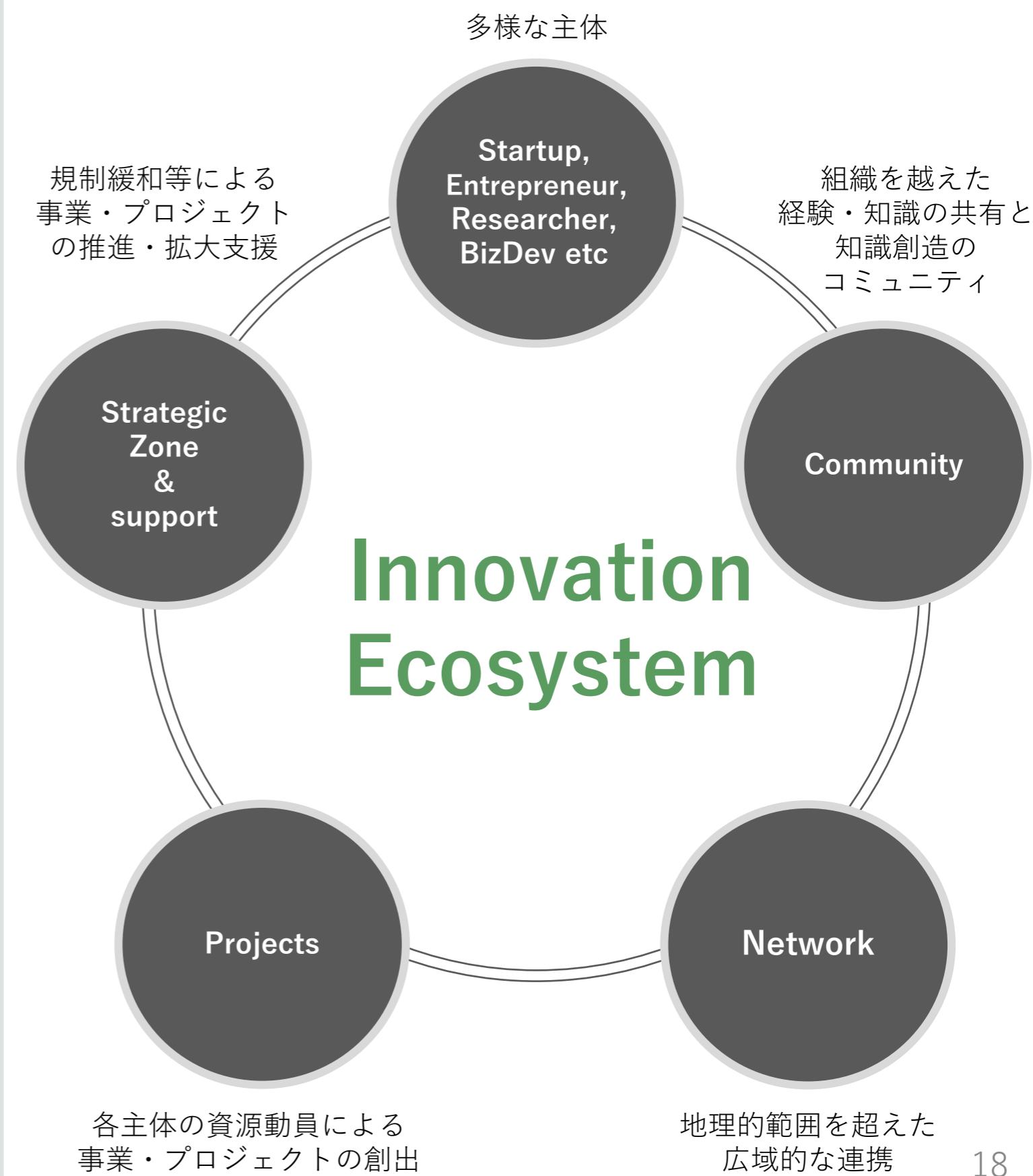
ビジョンⅡ.

Innovation Ecosystem (イノベーションエコシステム)

国内外の企業、研究者、スタートアップ等、様々な人が立場を超えてつながり、共創することで新たなチャレンジが促される基盤としての「エコシステム」を形成します。イノベーション創出に必要な、コミュニティ、プロジェクト創出支援、規制緩和等の様々な要素をリニア駅・橋本駅周辺に確立し、スタートアップ、起業家、研究者等様々な主体が集まり、成長する、自立的・持続的なイノベーションエコシステムの構築を目指します。

※エコシステムの要素は現時点で想定するもの

Innovation



ビジョンIII.

Technology & Fun (テクノロジー&ファン)

基礎研究、応用研究や様々なビジネスアイデア、技術シーズの受け皿となり、その成果をまちに展開します。このまちに関わる人とともに、まち全体で様々な技術を「試す、使う、溶け込ませる」ことで社会実装を推進し、市民のウェルビーイング向上を図るとともに、事業開発・研究開発成果へのフィードバックを得られる好循環のサイクルを構築。先端技術が全国から集まり、イノベーションを体感できるワクワクするまちを目指します。



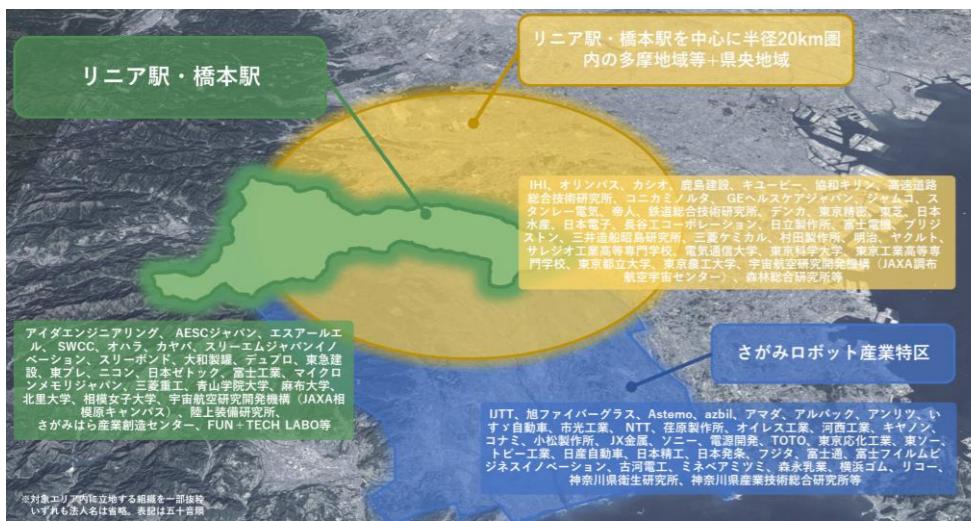
※写真は相模原市事業等における取組例

目標

【目標1】

県央・多摩地域等と連携した、リニア駅周辺広域イノベーションバレーの形成

リニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）周辺の県央・多摩地域の企業・大学等を一体的に繋ぐハブを形成し、首都圏、日本中央回廊における製造・研究開発のイノベーションの拠点を形成します。



【目標4】

イノベーション創出の文化とプライドの醸成

イノベーションの創出に関する情報や事例、成功モデルの発信を通して、新たなことにチャレンジしたい人が集まり、取組が促される土壤・文化を作ります。

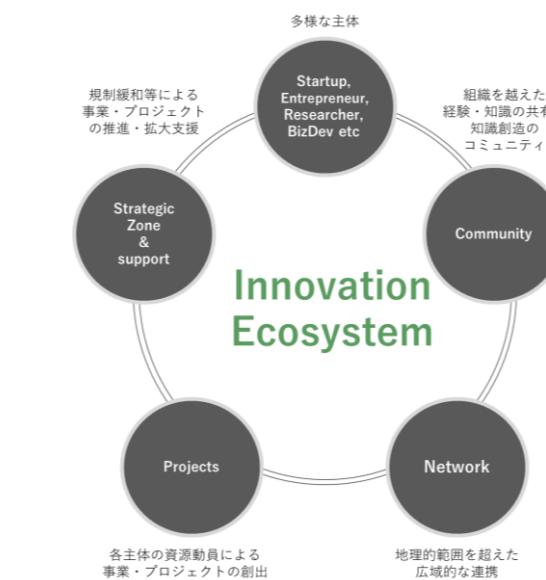


出典：Adobe Stock

【目標2】

事業開発・研究開発を促し、イノベーションエコシステムを形成

起業家・企業・研究者等、立場や産業領域を超えた交流・結合が起こり、新事業の創出やオープンイノベーションが活発に行われるエコシステムを形成します。



【目標5】

リニア駅周辺を中心とした実証・実装プラットフォームの形成

首都圏、日本中央回廊を中心に様々なテーマ・プロジェクトの実証実験が全国から集まるとともに、規制緩和等により事業開発・研究開発が促されるプラットフォームを形成します。



【目標3】

グローバルなネットワークの確立と交流の場の形成

首都圏、日本中央回廊との繋がりを全世界に展開していくため、海外の様々な主体、機関とのネットワークを形成します。



出典：Adobe Stock

【目標6】

先端技術を有する企業の研究開発機能、研究機関、大学研究室の誘致・集積

先端技術を有する企業の研究開発機能や、研究機関、大学研究室等を誘致し、先端産業が集積する拠点を形成します。



出典：Adobe Stock

戦略（目標・戦略・施策）

目標

【目標 1】
県央・多摩地域等と連携した、
リニア駅周辺イノベーションバレーの形成

【目標 2】
事業開発・研究開発を促し、
イノベーションエコシステムを形成

【目標 3】
グローバルなネットワークの確立と
交流の場の形成

【目標 4】
イノベーション創出の文化と
プライドの醸成

【目標 5】
リニア駅周辺を中心とした実証・実装
プラットフォームの形成

【目標 6】
先端技術を有する企業の研究開発機能、
研究機関、大学研究室等の誘致・集積

戦略

戦略① 広域的な産官学のビジネスコミュニティ・ネットワークの形成

戦略② デジタル・ロボット、宇宙、モビリティ関連産業に係る研究開発・事業開発の推進

戦略③ 市内企業の新規事業開発、研究開発の活性化とオープンイノベーションの促進

戦略④ 県央・多摩地域等をはじめ、国内の大学・研究機関との連携強化、ネットワークの構築・拡大

戦略⑤ 技術系ベンチャー・スタートアップを始めとした、多様なスタートアップの創出と成長支援

戦略⑥ 海外の企業・大学・支援機関等との連携強化、ネットワークの構築・拡大

戦略⑦ 先端技術の地域実装と、まちづくりや市民へのフィードバックによるブランディングの推進

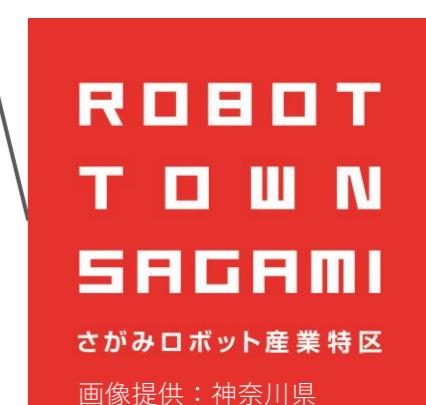
戦略⑧ 実証環境の拡大と実証エリア化の推進

戦略⑨ 事業開発・研究開発を促進するオフィスや研究施設等の立地・拡充推進

戦略⑩ デジタル・ロボット、宇宙、モビリティ産業を中心とした、企業・研究機関等の誘致・集積

※特に関連性の強いものを抜粋して紐づけ
※施策は一部抜粋

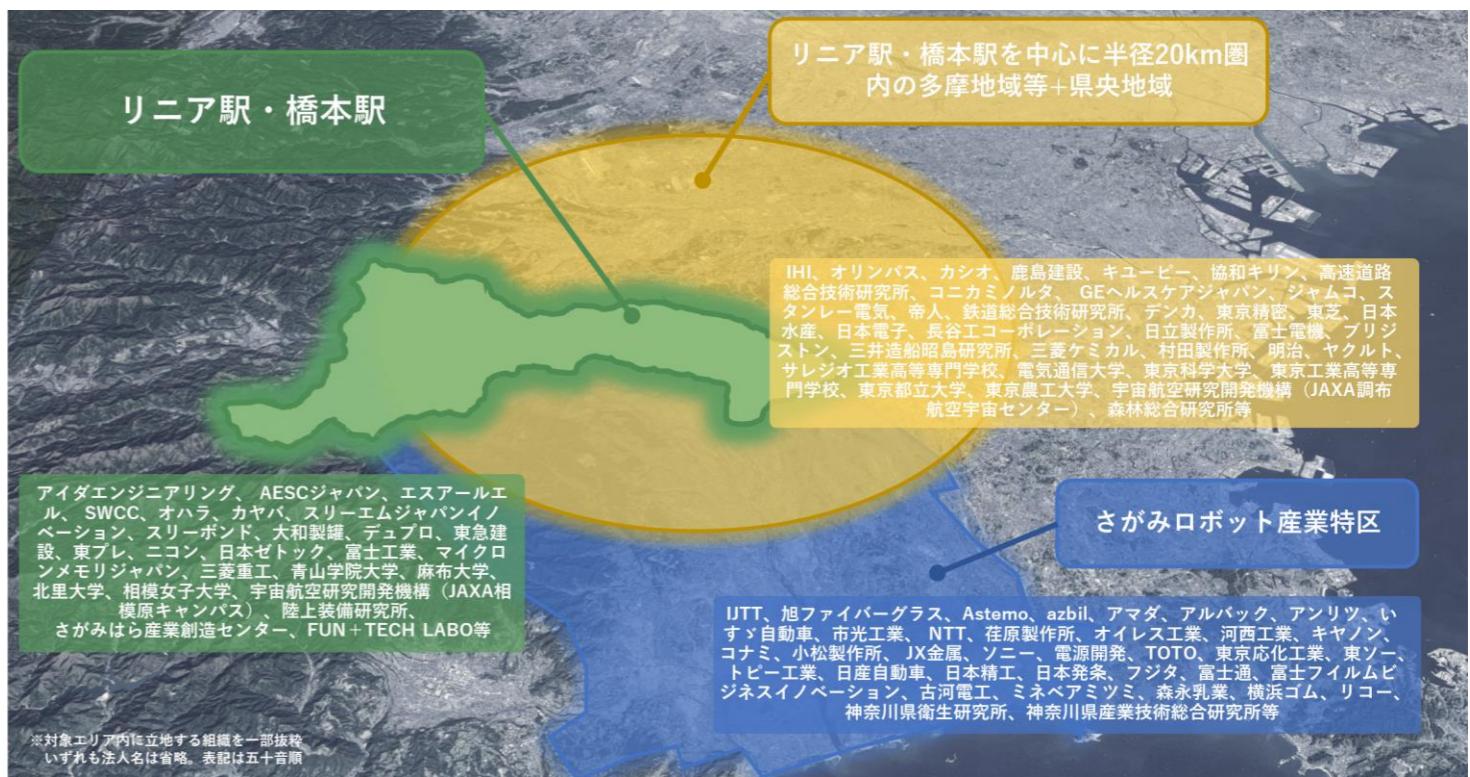
施策（リーディングプロジェクト）



【目標1】県央・多摩地域等と連携した、リニア駅周辺広域イノベーションバレーの形成

戦略① 広域的な産官学のビジネスコミュニティ・ネットワークの形成

相模原市、橋本駅周辺、県央、多摩地域における製造業や大学、学術研究機関等集積の強みを生かし、製造、開発・プロダクト化に強みを持つ、研究・開発一体型の「プロダクト・イノベーションのハブ」となり、企業・大学等との広域的なネットワークを形成し、首都圏、日本中央回廊におけるイノベーション創出の拠点化を推進します。



現在の施策（リーディングプロジェクト）

イノベーション創出促進拠点運営事業（JR東海 FUN+TECH LABO）

- 企業、スタートアップの研究開発や事業開発推進のための交流・イノベーション拠点で、オフィス、打合せ・イベントスペースを備えた施設。様々なイベントやセミナーの実施、実証実験相談の受付等により、多様な主体の交流を促し、イノベーションのきっかけを生み出す。



FUN+TECH LABO

FUN+TECH LABO コミュニティグループ【JR東海公式】>

■ プライベートグループ

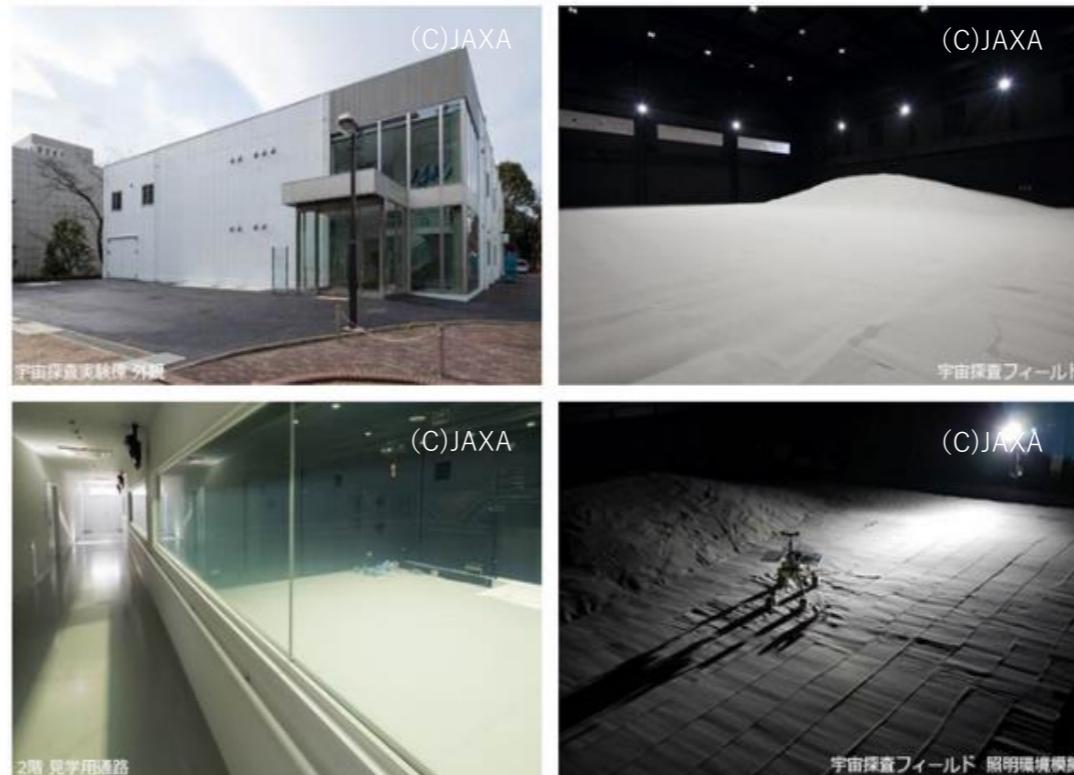
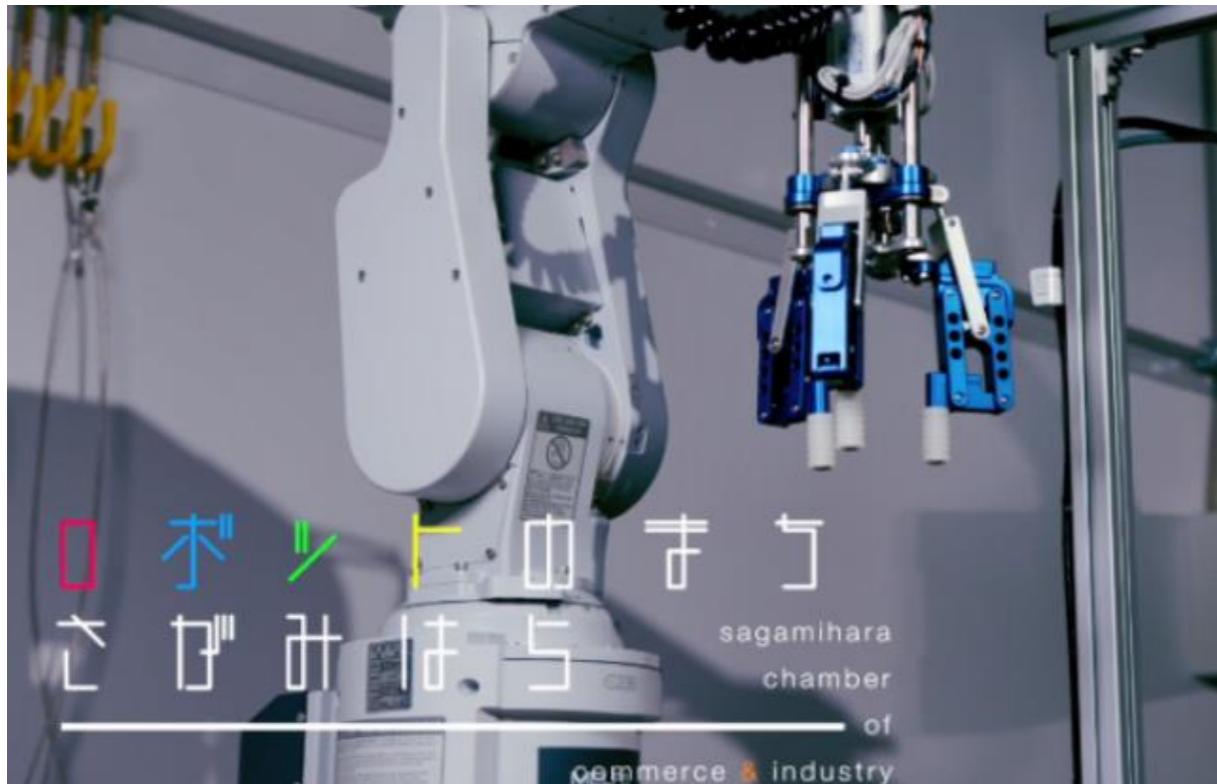
+招待 写真 イベント ファイル アルバム



【目標2】事業開発・研究開発を促し、イノベーションエコシステムを形成

戦略② デジタル・ロボット、宇宙、モビリティ産業に係る研究開発・事業開発の推進

デジタル・ロボット、宇宙、モビリティ産業を先端産業領域のターゲットとして定め、各領域における企業や研究機関の研究開発プロジェクトの実証・実装を推進するとともに、リニア駅・橋本駅周辺における、先端産業のブランドイメージの形成を推進します。



現在の施策（リーディングプロジェクト）

ロボット産業政策の推進、JAXA宇宙探査イノベーションハブや自動運転スタートアップ企業との連携

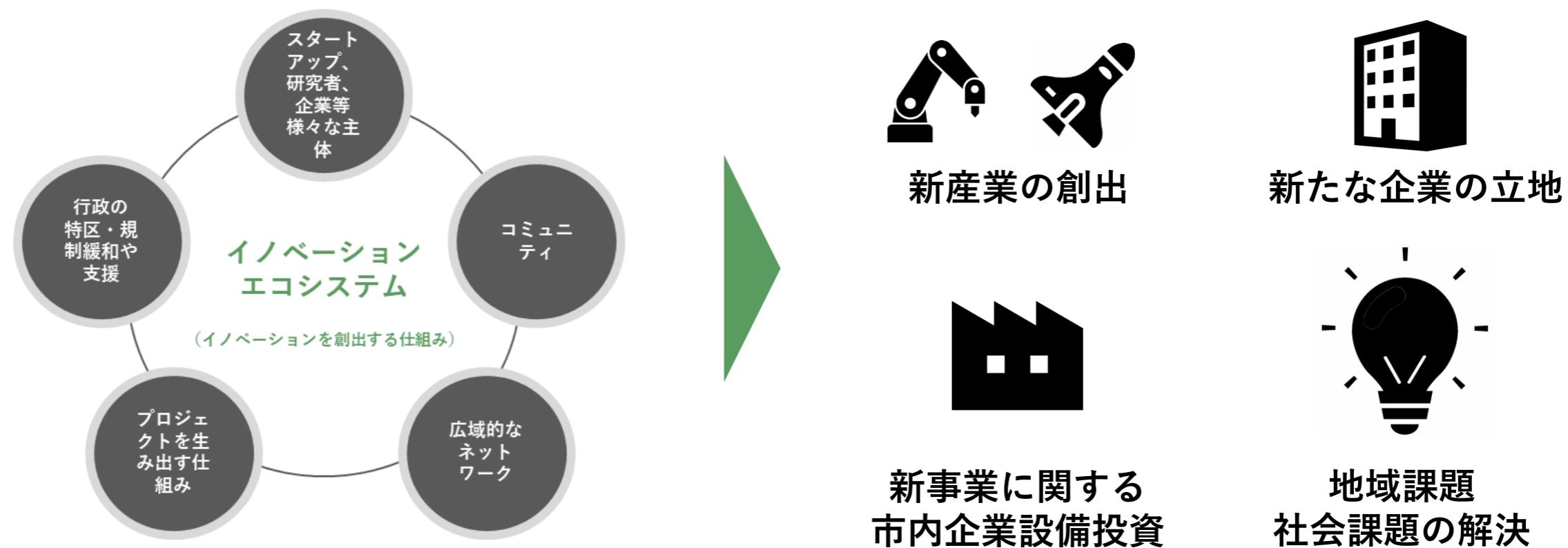
- 「さがみはらロボットビジネス協議会」「さがみはらロボット導入支援センター」により、市内企業を中心としたロボット関連企業のネットワークを形成
- 神奈川県・相模原市・国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構3者の連携協力協定の締結や、R6相模原アクセラレーションプログラムからJAXA宇宙探査イノベーションハブと連携しJAXA相模原キャンパス宇宙探査フィールドをスタートアップの実証フィールドとして活用
- R6年度イノベーション創出促進拠点運営事業では、自動運転スタートアップである株式会社ティアフォーと連携したモビリティイベントを実施



【目標2】事業開発・研究開発を促し、イノベーションエコシステムを形成

戦略③ 市内企業の新規事業開発、研究開発の活性化とオープンイノベーションの促進

起業家の成長支援、市内企業の新規事業開発、研究開発を活性化・オープンイノベーションの推進により、市内企業の強化、相模原市内外の様々な主体との繋がりの創出、市内への立地を促し、相模原市内、リニア駅・橋本駅周辺における、イノベーションを生み出す主体の数を増やし、新産業の創出を推進します。



現在の施策（リーディングプロジェクト）

相模原アクセラレーションプログラム、オープンイノベーションプログラム「Sagamihara Innovation Gate」

- 相模原市内に存在する多様な施設と連携した実証型支援と伴走支援により、高い成長意識を持つ起業家やスタートアップ企業を創出するアクセラレーションプログラムを実施
- 相模原市内企業と全国のパートナー企業2者によるオープンイノベーション型の新事業開発プログラムを実施



【目標2】事業開発・研究開発を促し、イノベーションエコシステムを形成

戦略④ 県央・多摩地域等をはじめ、国内の大学・研究機関との連携強化、ネットワークの構築・拡大

戦略⑤ 技術系ベンチャー・スタートアップを始めとした、多様なスタートアップの創出と成長支援

相模原市、県央、多摩地域に集積する企業や大学等のネットワークの形成と、企業や大学等が有する技術シーズの事業化や移転促進による、ディープテックや技術系ベンチャー・スタートアップの創出をはじめ、多様なベンチャー・スタートアップ企業の創出成長支援を推進します。



出典：県と市が初めて実施する「技術&ディープテック系ベンチャー・スタートアップ特化型成長支援プログラム」参加者募集開始！（10月9日付相模原市報道発表資料より）



現在の施策（リーディングプロジェクト）、関連する取組等

相模原アクセラレーションプログラム、さがみはら産業創造センター

- ・相模原市内に存在する多様な施設と連携した実証型支援と伴走支援により、高い成長意識を持つ起業家やスタートアップ企業を創出するアクセラレーションプログラムを実施（再）
- ・インキュベーション施設である「さがみはら産業創造センター」には技術系ベンチャー、ディープテック、ロボットベンチャー等が多数入居



【目標3】グローバルなネットワークの確立と交流の場の形成

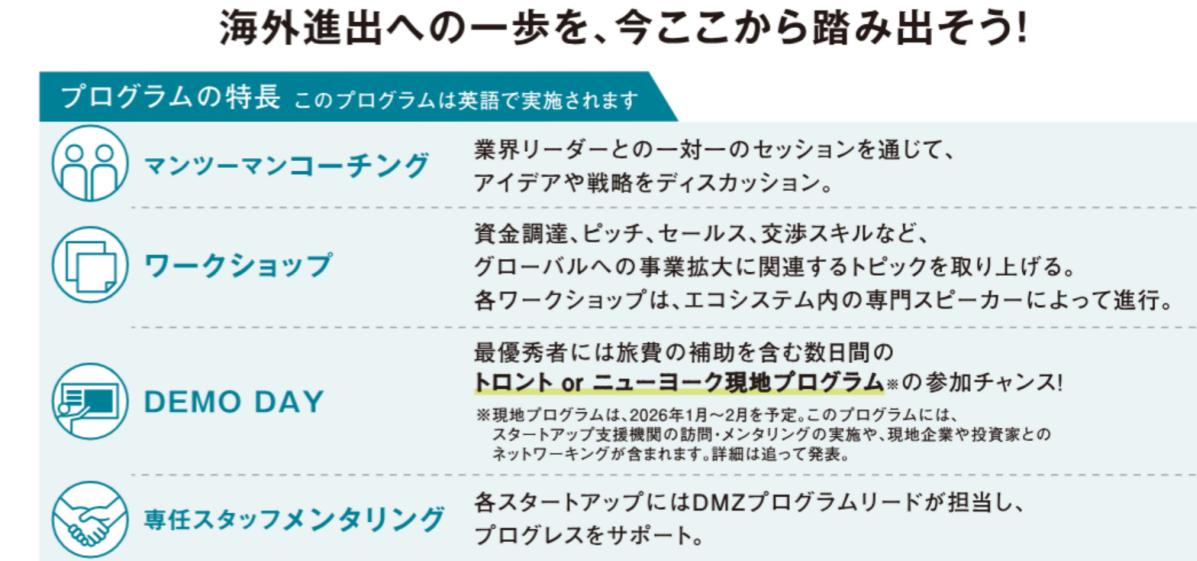
戦略⑥ 海外の大学・支援機関等とのネットワークの構築・拡大

首都圏、日本中央回廊との繋がりを全世界に展開していくため、海外のインキュベータ・アクセラレーターや、大学、企業等とのネットワークを形成します。リニア駅・橋本駅周辺に集まる企業、研究機関、起業家やスタートアップと世界との繋がりの創出を推進します。

参考・画像出典：GSER (Global Startup Ecosystem Ranking) 2024 トップ10都市。

千葉市Webサイト（相模原市の姉妹都市であるトロント市に立地するインキュベータとの連携事業例）

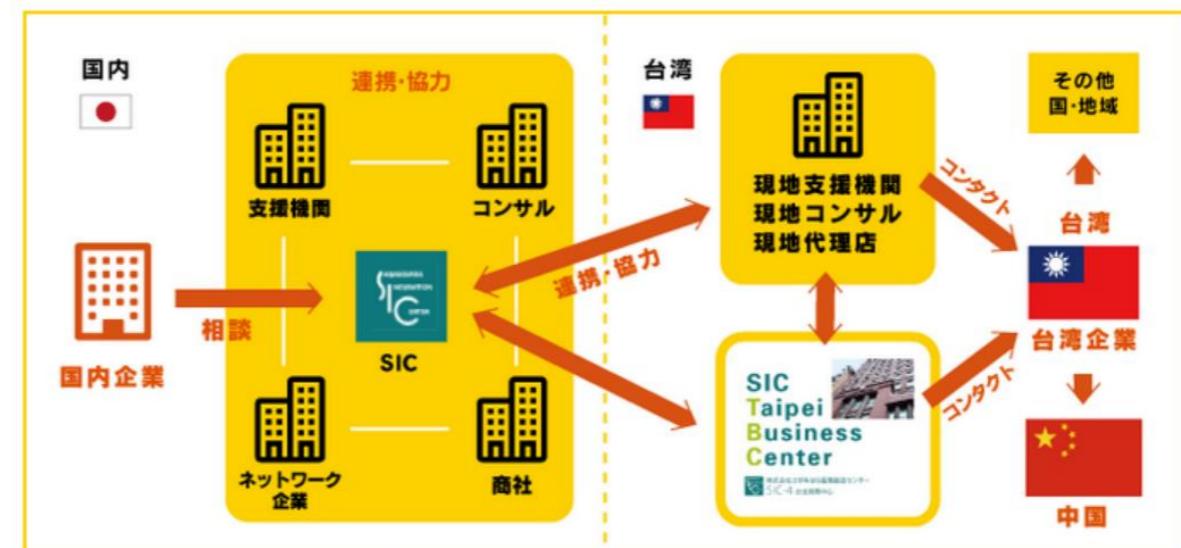
順位	エリア名	国
1	シリコンバレー	アメリカ
2	ニューヨーク	アメリカ
2	ロンドン	イギリス
4	テルアビブ・ヤффオ	イスラエル
4	ロサンゼルス	アメリカ
6	ボストン	アメリカ
7	シンガポール	シンガポール
8	北京	中国
9	ソウル	韓国
10	東京	日本



関連する取組等

さがみはら産業創造センター「SIC台湾ビジネスサポート事業」

- インキュベーション施設である「さがみはら産業創造センター」では、台湾の支援機関等とのネットワークを活かして、協業や販路開拓を支援



【目標4】イノベーション創出の文化とプライドの醸成

戦略⑦ 先端技術の地域実装とまちづくりや市民へのフィードバックによるブランディングの推進

デジタル・ロボット、宇宙、モビリティ産業をはじめとした先端産業に関するもの、交通、観光、中山間地域対策等の自治体政策と一体となった事業開発、研究開発プロジェクトの相模原市内実証・実装を推進し、市民に広く公開・体験してもらうとともに、取組や成功事例を発信することで、先端技術拠点としてのプロモーション・ブランディングを推進します。

参考：相模原市リニア駅周辺まちづくりガイドライン



コラム

トライアルのイメージ

新たな技術が生み出される
ロボットやモビリティの実証実験、試乗会等をまちで行います。
まちには最先端の技術を実装します。

次世代モビリティ実証事例：
羽田イノベーションシティ

地域の緑・賑わいをはぐくむ
市民が身近に触れ合うことができる地域の緑をはぐくみます。多様な人々が連携し、まちの賑わいを形成します。

まちの植物を守り育てる活動事例：
イケ・サンパーク

公共空間の利活用
市民、行政及び民間の連携により、公共空間を柔軟に活用し、シティプロモーションや新たな価値を創造する取組を推進します。

共創によるまちづくり事例：
日野リビングラボ

日野市ホームページより引用

現在の施策（リーディングプロジェクト）

FUN+TECH LABOを中心とした先端産業に係る研究開発の地域実証や取組みの発信

- 相模原市・大成建設・JR東海の3者による環境配慮型コンクリートの開発、KYB株式会社による新規事業のプロモーション、自動運転体験イベントの実施等を発信

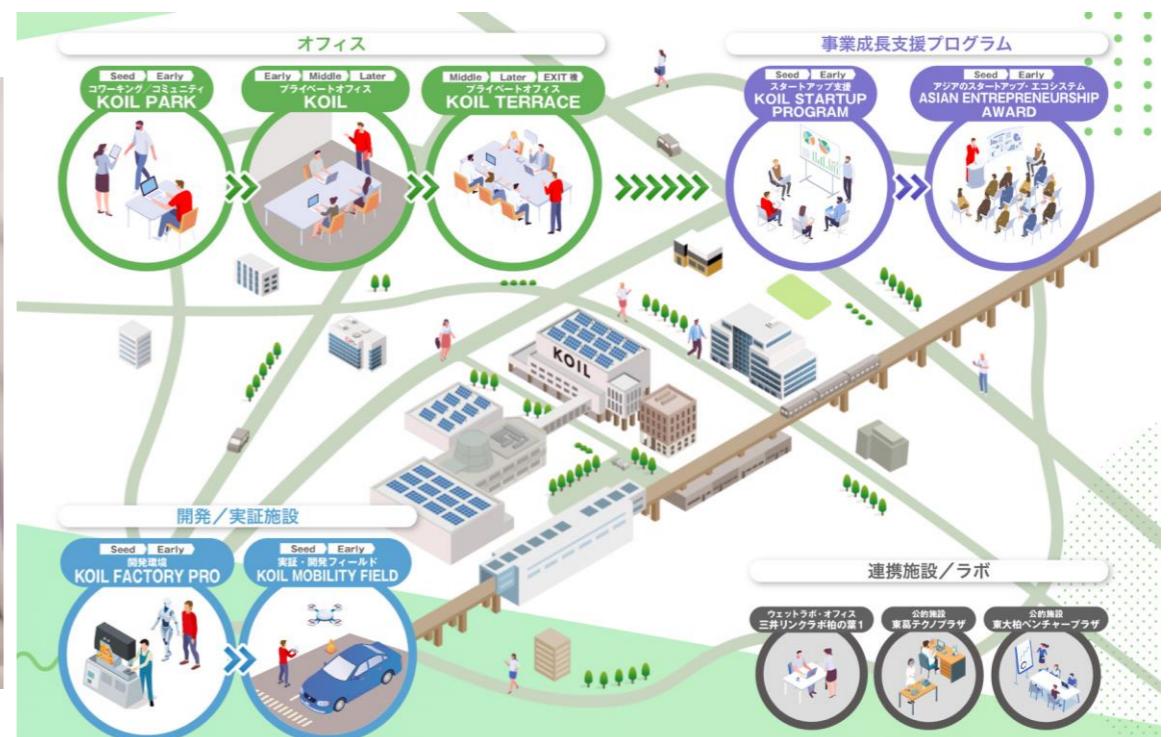


【目標5】リニア駅を中心とした実証・実装プラットフォームの形成

戦略⑧ 実証環境の拡大と実証エリア化の推進

リニア駅・橋本駅を中心に、相模原市内における実証環境の拡大、実証環境のネットワーク化を図るとともに、国家戦略特区等の枠組みを活用した規制緩和等へのチャレンジ、最先端インフラの導入等により、首都圏、日本中央回廊を中心に全国から様々なテーマ・プロジェクトを誘致し、集積させることで、事業開発・研究開発を行いやすいエリアの形成を推進します。

参考・画像出所：大学連携研究設備ネットワーク、イノベーションフィールド柏の葉Webサイト



現在の施策（リーディングプロジェクト）

さがみロボット産業特区の指定、スタートアップ支援施策に係る実証フィールド連携

- 相模原市はさがみロボット産業特区に指定されており、市内にプレ実証フィールドが立地。さがみはら産業創造センターにはさがみはらロボット導入支援センターを設置
- 相模原アクセラレーションプログラムでは、R6時点で4つの民間施設と連携し、スタートアップの実証事業が可能



【目標6】先端技術を有する企業の研究開発機能、研究機関、大学研究室の誘致・集積

戦略⑨ 事業開発・研究開発を促進するオフィスや研究施設等の立地・拡充推進

事業開発・研究開発を行う企業や大学研究室、学術研究機関の集積を図るため、まちづくりの機会を捉え、リニア駅・橋本駅周辺にベンチャー・スタートアップ企業から大企業まで、様々な主体が利用可能な業務施設、研究開発施設の整備や拡充を検討します。

参考・画像出所：新川崎・創造のもり（川崎市Webサイト）、キングスカイフロント「ライフィノベーションセンター」（神奈川県Webサイト）、三井リンクラボ柏の葉1（三井不動産Webサイト）



現在の施策（リーディングプロジェクト）、関連する取組等

ベンチャー・スタートアップ企業進出補助金、レンタルオフィス・ラボを有するさがみはら産業創造センター

- ・ベンチャー・スタートアップ企業進出補助金では、新たに相模原市に進出する先端産業領域に属する企業に対する補助金を交付
- ・さがみはら産業創造センターには、新規創業者、新事業開発に取組む方向けの約150室のオフィス・ラボ（ドライ・ウェット共）が存在



【目標6】先端技術を有する企業の研究開発機能、研究機関、大学研究室の誘致・集積

戦略⑩ デジタル・ロボット、宇宙、モビリティ産業を中心とした、企業・研究機関等の誘致・集積

相模原市内、リニア駅・橋本駅周辺にイノベーションを生み出す主体を増やすため、先端産業領域のうち、デジタル・ロボット、宇宙、モビリティ産業をターゲットとし、これら産業領域に属する企業・研究機関等の誘致・集積を推進します。

参考・画像出所：キングスカイフロント立地機関一覧（殿町国際戦略拠点 キングスカイフロントWebサイト）



立地機関 70機関

研究者 約600人

就業者数 約1,400人

博士号取得者 約300人

- ① アズワン株式会社 ソリューションリサーチラボ
- ② 株式会社アルバコーポレーション エニーラボラトリー 03
- ③ 株式会社遺伝子治療研究所
- ④ SBIファーマ株式会社 04
- ⑤ Elixirgen Scientific, Inc.
- ⑥ 地方独立行政法人神奈川県立産業技術総合研究所 (KISTEC) 殿町支所 05
- ⑦ 公立大学法人神奈川県立保健福祉大学 ヘルスイノベーションスクール・イノベーション政策研究センター
- ⑧ 川崎市環境総合研究所 06
- ⑨ 川崎市健康安全研究所
- ⑩ 公益財団法人川崎市産業振興財団 殿町キングスカイフロントクラスター事業部
- ⑪ 公益財団法人川崎市産業振興財団 ナノ医療イノベーションセンター (iCONM) 07
- ⑫ 川澄化学工業株式会社
- ⑬ クリエートメディック株式会社 研究開発センター 08
- ⑭ 廉應義塾大学 殿町先端研究教育連携スクエア (殿町タウンキャンパス)
- ⑮ 国立医薬品食品衛生研究所 09
- ⑯ シスメックス株式会社
- ⑰ JSR BiRD (JSR Bioscience and informatics R&D Center) 2021年7月開所予定 10
- ⑱ 公益財団法人実験動物中央研究所
- ⑲ ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社 ジョンソン・エンド・ジョンソンインスティテュート 東京サイエンスセンター 11

現在の施策（リーディングプロジェクト）、関連する取組等

ベンチャー・スタートアップ企業進出補助金、STEP50

- ・さがみはら産業集積促進方策（STEP50）では、工業系用地へのリーディング産業（ロボット・航空宇宙）、本社機能や研究開発機能の立地に対する奨励措置を最大40%交付
- ・ベンチャー・スタートアップ企業進出補助金では、新たに相模原市に進出する先端産業領域に属する企業に対する補助金を交付



工場等の立地に要した費用の最大40%以内(限度額10億円)の奨励金を交付

※10か年に分割して交付

次に掲げる場合、奨励金を合算し最大40%の奨励金により、本市進出を全国トップクラスで手厚くサポートします。

- ・リーディング産業「ロボット」「航空宇宙」に該当する企業等 20%
- ・工場等の立地とともに本社機能を市内に移転する企業等 10%
- ・市内に工場等がなく初めて市内に立地する企業等 10%

施策（リーディングプロジェクト）：現在の神奈川県駅（仮称）周辺の施策例

リニア駅・橋本駅周辺では、相模原市による施策、神奈川県や民間企業による様々なプロジェクトが展開されています。（令和7年11月時点）※市の施策は緑字部分

イノベーション創出促進拠点の運営
(ビジネスコミュニティの形成)



ベンチャー・スタートアップ企業の進出支援
(ベンチャー・スタートアップ企業向け補助金)



FUN+TECH LABO
(JR東海)



市内企業のオープンイノベーション型の
研究開発・事業開発支援
(オープンイノベーションの推進)



スタートアップ支援プログラム
(スタートアップ企業の創出・支援)



広域的スタートアップ支援ネットワークの
形成と技術系ベンチャー支援（スタートアップ支援
ネットワーク、コミュニティの形成）



さがみはらロボットビジネス協議会
(ビジネスコミュニティの形成)



さがみロボット産業特区、ロボット企業交流拠点
(国際戦略総合特区への指定、
ビジネスコミュニティの形成)



神奈川県・相模原市・国立研究開発法人宇宙航空研究との3者連携協定の締結



ビジネスアクセラレーターかながわへの
橋本でのエリアオープンイノベーションプログラム「ROOOT」参加、
ロボット大集合イベント@アリオ橋本（京王電鉄）



戸田建設・ロボットビジネス協議会による
ロボットフレンドリー実証事業の実施
(戸田建設・さがみはらロボットビジネス協議会)



施策（リーディングプロジェクト）：現在実施中、今後進める施策の方向性

現在実施している施策に加え、今後も様々な施策の実施を検討します。※点線部分以外が主に市の施策

実施段階	現在実施中の施策、今後進める施策の方向性
既に実施している施策	<ol style="list-style-type: none"> 1. イノベーション創出促進拠点の運営（イノベーション創出促進拠点運営事業） 2. 市内企業のオープンイノベーション型の研究開発・事業開発支援（オープンイノベーションプログラム） 3. スタートアップ支援プログラム（相模原アクセラレーションプログラム） 4. 広域的スタートアップ支援ネットワークの形成と技術系ベンチャー支援（広域スタートアップ支援ネットワーク形成事業） 5. ベンチャー・スタートアップ企業の進出支援（ベンチャー・スタートアップ企業進出補助金） 6. さがみはらロボットビジネス協議会の運営（ロボットビジネス活性化事業）
短期的に具体化を検討する施策 ※事業化に向けた検討をR7年度から開始	<ol style="list-style-type: none"> 7. ロボットフレンドリーな環境構築・実証実験支援の検討 8. デジタル・ロボット、宇宙、モビリティ産業に属する民間企業、大学、研究機関や神奈川県との連携による先端技術に係るプロジェクトの誘致と協力体制の構築、会議体等の構築 9. ものづくり産業交流ゾーンへの、公共（県市連携）による研究開発拠点の整備の検討・可能性調査 10. 民間開発事業者のオフィス等の業務施設の整備・設置や、立地に対する支援の検討 11. 宇宙産業に係る産業振興施策の検討
中長期的視点で検討する施策	<ol style="list-style-type: none"> 12. 海外との連携による、ビジネスコミュニティ・ネットワークの拡大 13. 国家戦略特区制度を活用した規制緩和の実現 ※国・県との施策連携を想定 14. 都市再生緊急整備地域内における民間都市再生事業計画を活用した開発促進 ※国・県との施策連携を想定 15. 次世代通信等デジタルインフラ整備 ※国・県との施策連携を想定 16. まちづくりと連動したテクノロジー導入 17. 先端技術のテストベッドエリアの形成のためのネットワーク構築 18. 技術系人材のマッチングの仕組みの構築

その他、民間事業者等によるプロジェクト

価値創造プロセス



リニア沿線地域

画像提供:JR東海

リニア沿線地域における交流のハブ

リニア沿線地域の産業リソースと相模原市、ハブ機能としてのリニア駅・橋本駅周辺との連携機会の増加と、日本中央回廊の産業発展への貢献



研究開発・事業開発
開発投資

地域価値創出とエリアの魅力向上

本戦略、リーディングプロジェクトの推進による、産業・ビジネスの場としての価値の創出により、研究開発の拠点、開発・投資エリアとしての魅力の向上

生産・研究開発連携や入居企業のリニア駅・橋本駅周辺、相模原駅周辺への拡張移転

さがみはら
産業創造センター

インキュベーション
スタートアップ創出

新たな集積の創出

生産・研究
開発集積の推進

生産・研究
開発連携

生産・研究開発
連携による活性化

本戦略、リーディングプロ
ジェクトの推進による、
リニア駅・橋本駅周辺への
業務・研究開発機能の集積

相模原駅北口地区、
麻溝台・新磯野地区等他
エリアのまちづくりに対
する開発需要の創出

相模原駅北口周辺
業務・研究
開発機能立地

業務・研究
開発機能の集積

生産・研究
開発連携

麻溝台・新磯野地区

市内既存産業集積エリアと連
携し、生産・研究開発の活性
化と、リニア駅・橋本駅周辺、
相模原駅周辺への拡張



神奈川県

県内のデジタル&ロボティクス、 宇宙、モビリティの中心拠点

神奈川県央の産業リソースと相模原市、ハブ機能としてのリニア駅・橋本駅周辺との連携機会の増加と県内産業の発展への貢献

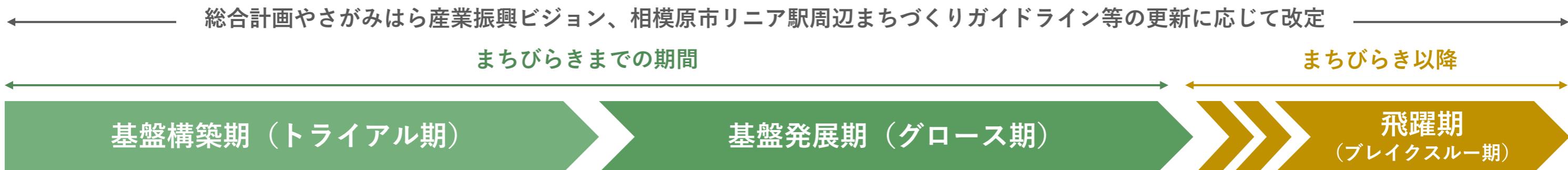
東京都心部周辺や海外地域と連携する 研究開発・プロダクト化拠点

多摩地域の産業リソースと相模原市、ハブ機能としてのリニア駅・橋本駅周辺との連携機会の増加

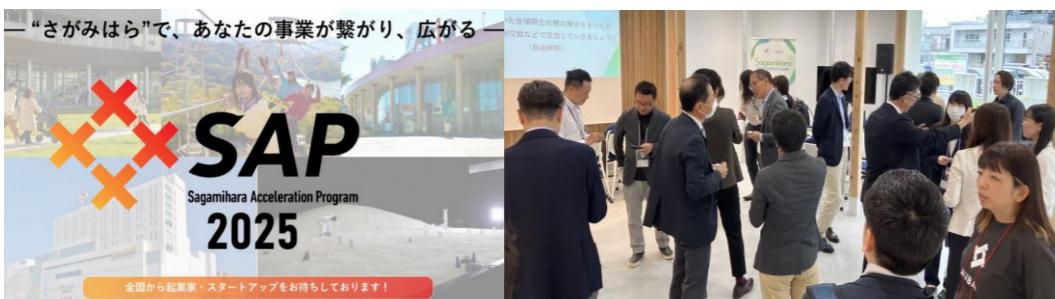
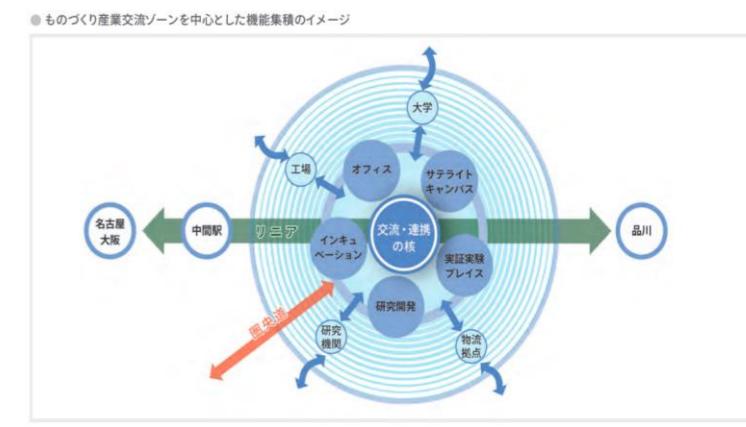


戦略実現のロードマップ

本戦略は、まちびらき時点までの運用を想定し、まちびらき時点、リニア中央新幹線開業時、開業5年後等、まちの成長段階や、総合計画等の上位計画の更新に応じて改定を行うことを前提としています。また、必要に応じて、適宜時点修正を行います。



画像提供：JR東海



実現のイメージ

- 企業、大学、研究機関等、産官学のビジネスコミュニティの形成
- 市内を中心とした事業・研究開発の活性化
- 先端技術に係るプロジェクトの開始等

- ビジネスコミュニティの深化、拡大、ビジネスコミュニティの広域化
- 県央・多摩地域とリニア中央新幹線神奈川県駅（仮称）周辺地域との事業・研究開発連携の増加と周辺地域の活性化
- 先端技術に係るプロジェクトの推進、実装等
- リニア駅・橋本駅周辺への新たな産業集積の実現
- 集積した産業やビジネスコミュニティ、ネットワークによるイノベーションの創出等